

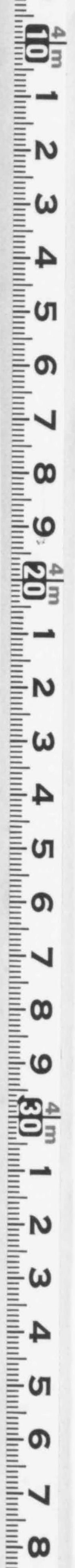
米國海上法
第一卷

寫本
米國海上法
第八百八十八號
第三冊
甲四冊內

第 七	第 一 架	第 六 號
--------	-------------	-------------

司法省
第三六號
寄贈圖書文庫

B 853
S /
5-1a





~~B870
16-12-11
(司錄單)~~

✓ B853
SI-5
12

司法省記錄文庫

保
第八百八十八號
本三冊ノ四

米國海上法

第壹号

米國海上法

第一章

總則

第二章

裁判權，事

第三章

憲法，事

第四章

海上及、航海法，事

第五章

英國旧海上裁判所推限，事

第六章

慣例裁判所、海上裁判所

、軌轍，事

第七章

米國革命、際現設英國海

上裁判所，事

第八章

蘇格蘭及、愛爾蘭、海上

裁判權，事

B 853
S 1
5 - / a

第九章 英国殖民地海上裁判權、事

第十章 州立海上裁判所權限、事

第十一章 他國及其他歐洲各國、海上裁判權、事

第十二章 海上法及、航海法、事

第十三章 陪審吟味慣例法上、訴訟、人權、訴訟及、商法、事

第十四章 海上契約、事

第十五章 船舶、事

第十六章 海湖川、區別

第十七章 特別訴訟、關、以判例

第十八章 裁判所、構成、事

第十九章 米國海上裁判所訴訟手續、事

第二十章 海上裁判、性質及、手續、事

第二十一章 地方裁判所訴訟手續、事

第二十二章 訴訟開始、事

第二十三章 令狀、事

第二十四章 物件、賣却及、交付、事

第二十五章 令狀、後命、欠席及、出庭、事

第二十六章 年論、事

米国海上法

第一章 総論

抑、貿易業タル漸次大ニ盛大ニ至リシヲ以テ其
營業及、商業上ノ代人ノ權利義務等ヨリ商事
裁判上ノ推限等ヲ規定スルノ法律モ亦從テ大
ニ増加セシカ此等貿易上ニ関スル法律中其貴
重ナルモノハ各国人民ノ各互ニ各国ノ国語ニ
通シ各国ノ法律ト習慣トニ契違シテ以テ相共
ニ競争スル所ノ海上貿易ニ関スルモノトス殊
ニ我カ米國ノ如キ政体ノ組織上ヨリシテ各異
ナル独立裁判所ノ設ケアルニ種ノ政府ヲ設ケ
テ各同一ノ人民ト同一ノ所領地トヲ管轄スル
國ニ在テハ海上貿易ニ関スル法律ヲ以テ最モ

貴重ナルモノト為スモ敢テ過当ニアラサル可
シ何トナレハ我カ所領地ノ如キハ元ト他国ヨ
リ得シ者ニ係ルヲ以テ往古ヨリ他国ノ法律ヲ
收用シ又此等ノ人民ハ其過半ハ我カ米國中ニ
住居セシ世界中商業ノ最モ盛ナル邦国ノ人民
タルヲ以テナリ

元來航海術海上貿易等ノ職業ハ各国共ニ舉テ
看テ一種特別ノモノト做サ、ルモノナシ故ニ
此等職業上ノ代人ヨリ總テ其有機無機ノ器具
等ニ在テモ亦一種特別ノ權利特許ト責任トヲ
有シ從テ此等ノ職業ヲ規定スルノ規則ヨリ此
等海上ノ事務ニ関スル裁判所法律及、其法律
ヲ施行スル方法等モ亦別ニ其設ケアラサルモ

ノナク然シテ各国ノ船舶ノ如キハ其何レノ地
ニ在ルヲ問ハス看テ其国ニ附属スルモノト做
スカ故ニ苟クモ商業ノ盛大ナル国ニ於テハ各
国共ニ航海海上貿易等ヲ獎勵シ又ハ船舶ニ関
スル至当ノ規則及、其雇入等ヲ規定スルヲ以
テ常ニ其法律上ノ目的トシテ之ニ注意セシ
ルモノナシ

爰ニ各国ノ国史ヲ案スルニ往古專制ノ規則ト
強力ノ行政權トヲ以テ專テ政府ノ職務ヲ行ヒ
タル時代ニ在テハ當時其国ニ於テ航海ヲ為シ
タル海上及、其他航海ヲ為ス河川等ニ関スル
事務ハ各国共ニ国帝ヨリ勅命ヲ以テ命セテレ
タル者ニシテ国帝ニ屬スル諸種ノ特權ヲ委任

セラレ且国帝ニ次テ最モ高貴ナル官位ヲ有ス
ル海軍官吏ノ所轄ニ属サルモ、ナシ故ニ苟
モ海上貿易ヲ爲シタル国ニ於テハ各国共ニ多
ク英語ノ所謂水師提督ニ類似スル官名ノ官吏
ヲ設ケテ海上ニ関スル裁判權ハ元來此等官吏
ノ所轄ニ属セシカル未だ數多ノ變革ヲ經歷シ終
ニ此等海軍官吏ノ隨意ニ制定シタル規則ヲ變
シテ寛大公平ナル海上律ヲ制定スルニ至レリ
羅馬ノ兵力ノ世界ニ冠タル時代ニ在テ詭國ノ
有名ナル理論家ノ演說セル論說ハ當時唯テ詭
國ノ訟庭内ノミニ於ケルノ外曾テ世ニ行ハレ
ザリシカル後千八百年ヲ經過スルノ今日ニ在
テハ苟モ文明ノ光輝ヲ受ケタル国ニ於テハ各

國共ニ之ヲ以テ人間交際上ノ法律ト爲シ国史
ニ之ヲ載セサルモ、ナリ從テ海上ニ関スル法
律ノ弁理ニ至テモ亦更ラニ至當ノ裁判所ヲ設
ケテ其所轄ニ移シ然シテ水師提督ノ官職ハ海
軍官吏ノ推内ニ存留セシヨリ從來水師提督ノ
其平常ノ職務トシテ從事セシ此等法律ノ弁理
ハ終ニ此等裁判所ノ主任ノ職務ト爲リテ一層
温順有益ナル方法ヲ以テ之ヲ行フニ至レリ然
シテ斯ノ如ク此等ノ裁判所ニ於テ海上ノ事務
ヲ弁理スルニ至リシヨリ之ヲ管理スルノ制規
ハ水師提督ノ其執行ニ関預スルヲ止息セシ後ヨリ
之ヲ稱シテ海上律トセリ尔來海上ノ貿易ハ漸次日ニ
盛大ニ至リ從テ萬國ノ貿易通商モ亦一層増加セシ

ヨリ海上ハ者テ之ヲ各国共用ノ公道ト做シ各国ニ於
テ權利ヲ有スルモノトセシカ各国互ニ其便益ト推
利トテ共有スルニハ海上ノ法律トシテ之ヲ規
定スル一般ノ規則ヲ設クルトハ必要タルニ至
リシヲ以テ終ニ萬国航海律トニ稱ス可キ種類
ノ規則ヲ設ケテ各国ノ裁判所ニ於テ相共ニ之
ヲ收用スルニ至レリ然シテ此規則ハ今日ニ在テ
ハ之ヲ稱シテ一般ノ航海律ト云ヒ又ハ一般ノ海上
律トモ稱スルモノニシテ苟クモ各国ト交誼ヲ通スル
国々ノ裁判所ニ於テハ之ヲ收用セサルモノナ
シ

元來海上律ハ各国中亦一ニ之ヲ收用セシ国ノ
當時ノ景況ニ從テ規定セシモノ少カラズ然シ
テ各国中其最モ先キニ海上ノ法律ヲ集録シテ
航海規則ノ法律層ヲ編纂セシ国ハ一トシテ羅
馬法ヲ收用セシ国々ニアラサルナキヲ以テ其
集録セル規則ハ之ヲ航海規則ト混同シ然シテ
之ヲ以テ其国ノ航海律トセシカ誤律中ニハ法
理ヨリ諸種ノ權利及ヒ實際ノ手續等ニ至ル迄
集録シテ漏スナキニ依リ終ニ之ヲ以テ一般ノ
航海律トシ各国共ニ之ヲ收用スルニ至レリ然
シテ英國ニ於テハ慣例法ヲ以テ國家ヲ治ムル
ノ法律トシ羅馬法ヲ以テ海上律トシ然シテ海
上裁判所ニ於ケル訴訟ノ手續モ亦全ク羅馬法
上ノ手續ヲ收用セリ

然レモ斯ノ如ク羅馬法ノ手續ヲ收用シテ全ク

陪審ヲ用ヒサル裁判所ハ英國ニ於テ爾來國民
ノ法律上ノ後見人ヲ以テ自ラ責任スル法律裁
判所判事等ノ大ニ忌嫌スル所ト爲リ此等ノ判
事ハ海上裁判所ヲ看テ徒ラニ外國ノ法律ヲ收
用シ然レテ正理ニ反シテ人民ヲシテ陪審審訊
ト慣例法上ノ正肅ナル訴訟手續トニ扱ラシメ
サルノ違反者ナリトシ大ニ熱心シテ海上裁判
所ハ所轄ニ屬セシ裁判權ヲ収奪ス可キトテ争
論セシヨリ諛裁判所ノ裁判權ハ数年ノ間争論
ノ問題ト爲リ双方互ニ正理ヲ尽シテ討論講究
セシカ世人ノ果シテ海上裁判所判事ノ論說ヲ
以テ正理ナリトセシヤ否ヤハ今日ヨリ看テ之
ヲ判断スルヲ得可キモノニアラス然レモ慣例

法上ノ一方ハ其人負ノ多数ナルカ上ニ當時
シグスマンチ廳ノ判事長ナリシ碩学ノロルド
コーク氏モ亦其一人ニシテ殊ニ諛廳ハ海上裁
判所ヨリモ上等ノ裁廳ニシテ何時ニ依ラス禁
令狀ナルモノヲ發シテ諛裁判所ニ於ケル訴訟
ヲ停止スルノ權アリシヲ以テ觀レハ慣例法上
ノ一方ノ復令正理ノ何様不充ナルニモセヨ
其勢力ノ盛大ニシテ其結果ノ如キハ敢テ多言
ヲ費スヲ要セス推シテ知ル可キナリ然レテ海
上裁判所ノ裁判權ハ此等ノ争論ノ末大ニ其区
域ヲ減縮セラレ尒未輒迄ノ法例ニ依リ其種
最モ便利ナル方法ヲ以テ更ニ之ヲ擴張スルニ
至ル迄ハ其区域内ニ存留セリ

英国ニ於テ此等二種ノ裁判權ノ間ニ爭論起リ
テ終ニ慣例法上ノ勝利ニ歸シタルハ英國ノ
肩冊ニ載セテ我カ国ニ傳來セシヨリ我カ国ノ
革命前ノ法律家ハ勿論尚ホ且革命後ノ法律家
ト雖モ亦深ク英國ニ於テ海上裁判所ノ裁判權
ヲ減殺セシトテ可トシテ之ヲ稱讚セシ者少カ
ラス尔来今日ニ至ル迄有名ノ法律家及ビ判事
等ニシテ英國ニ於ケル論說ト推限トテ我カ国
ニ移サントシ然レテ英國海上裁判所ニ於テ曾
テ有セシ無限ノ裁判權ノ如キハ世界中ノ裁判
所ニ於テハ尚ホ之ヲ有スルモノナキニアラサ
ル可シト雖モ我カ米國ノ海上裁判所ニ於テハ
敢テ之ヲ有スルモノニアラス唯タ英國ニ於テ

彼ノ爭論ノ日ヲ以テギンクスバンケ聴ヨリ諛
國ノ海上裁判所ニ准許シタル推カヲ行フノ權
アルノミニ過キサルヲ論說ヲ主張セシ者往
々之レアリ是ヲ以テ我カ国ニ於ケル海上裁判
所ノ裁判權ニ關スル法律ハ後令ニ合衆國ノ憲
法中海上ト航海トニ關スル裁判權内ノ總テノ
訴訟ノ裁判權ヲ合衆司法權内ニ准許スルノ明
文アリ且國會ノ決議ヲ以テ此等裁判權内ニ屬
スル民事上ノ總テノ訴訟ニ關スル初審ノ裁判
推テ地方裁判所ニ委任セシト雖モ之レニ關セ
ス尚ホ未ク以テ確定セサルモノ、如シ
又有名ノ法學者中ニハ我カ憲法中ニ准許シタ
ルモノハ航海ト海上トニ關スル裁判權内ノ訴訟中

唯々我カ国ノ革命ノ時ニ当テ英國ノ法律家ノ
諛國ノ海上裁判所ノ権内ニ属ス可ク兼認シタ
ル者ノミニ過キサルヲ論説ヲ主張セシ者少
カラサリシカ大判事タルケント氏モ亦其一人
ニシテ氏ハ曾テ合衆國ノ裁判所ニ於テ大ニ此
論説ヲ討論講究セシ後尚ホ左ノ所見ヲ申述セ
リ曰ク憲法創定ノ時ヲ以テ英國ノ法律中ニ定
メタル制限外ニ海上裁判所ノ民事ノ裁判権ヲ
擴張セントスルノ論説ハ到底行ハル可カラス
ト然シテ此等ノ問題ニ関スル裁判論説及ビ裁
判所ノ所説等ハ古来ヨリ載セラ我カ報告辱中
ニ有ルカ我カ大審院ニ於テ此問題ニ関スル上
告ノ裁判権アルヲ固ヨリ此等ノ報告中ニ掲

載セル訴訟ヲ以テ之ヲ徵スルニ足り然シテ諛
院ニ提起セル訴訟ニ於テハ固ヨリ前後同轍ニ
英國ニ於ケル裁判権ニ関スル規則ハ我カ国ニ
行ハレサルヲノ裁判ヲ為シタルモノ、如シト
虽モ諛院ニ在ラモ尚ホ全ク英國ニ於ケル権限
ヲ以テ裁判ヲ為シタル訴訟モ亦少カラサリキ
是ニ由テ之ヲ觀レハ将来此問題ノ再ニ世ニ起
リテ之ヲ討論講究スルニ至テハ蓋シ往古ノ訴
訟ノ裁判ト海上律ノ本元ノ規則トニ基テ之レ
カ規則ヲ制定セラハル可キハ敢テ疑ヒテ容レサ
ルナリ

然レモ若シ其規則ヲ制定セラハル、ノ日ニ當テ
ハ此等ノ問題ハ固ヨリ尚ホ且ツ當時世人ノ確

定スルモノト思考スル条件ニ至ル迄再々討議
ヲ尽シテ決定セラレ可シト雖モ其時期ニ違ス
ルノ日ニ至ル迄ハ到底確定セサル可シ然レテ
其確定セサル所以ノモノハ其事情数多アリト
雖モ一部ハ全ク海上律ニ関スル往古ノ証拠ヲ
容易ニ得能ハサルノ事情アルニ依ルモノトス
然ル所以ノモノハ他ナシ合衆国大審院ニ於テ
裁決ヲ為スニハ唯々局面ヲ以テ其裁決スル
ノ必要ナルモノ、ミテ決断シ又代言人ノ弁論
ハ之ヲ報告層ニ掲載スルヲ得サリシヨリ之レ
カ为ノ終ニ諛院ノ貴重ナル論說查明及々有名
ナル法律家ノ此問題ニ付裁判所ニ於テ討論セ
シ弁論等ヲ了知スルノ便益ヲ失ヒシヲ以テナ

リ故ニ本層ニ於テハ便宜ノ方法ヲ以テ苟クモ
此問題ニ関スルモノ、未タ曾テ世ニ公布セス
又ハ往古ヨリ僅カニ保有スル層冊中ヨリ發見
セル者ハ勿論其他海上ニ関スル諸種ノ手續ト
此問題ノ講究上必要ナル告知ヨリ其規則先例
等ヲモ共ニ掲載シテ聊カ世ノ利益ヲ謀ラント
ス尚ホ且合衆国海上裁判所ノ裁判推上ノ未登
ノ一班ヲ論スルモ亦敢テ贅言ニ属スルニアラ
サル可ク然レテ之ヲ論スルニ当テハ其裁判權
ノ起源ノ大略ト及々之レニ関スル最モ著明ナ
ル記録等ヨリ訴訟ノ判決判事ノ所說及々原著
者ノ論說等ヲモ共ニ掲載ス可シ
海上律トハ何ソ他ナシ海上ト航海上トノ条件

ニ関スル国民ノ所行ヨリ及、其營業財産等ヲ
規定スル所ノ規則ニ外ナラサルナリ
海上律ノ起源ヲ論スルハ敢テ本旨ノ目的トス
ル所ニ了ラス其起源ハ宜シク之ヲ論スル諸種
ノ層冊ト及、尤ニ記載スル判決層トニ付テ見
ル可シ

然シテ讀者ノ此等ノ起源ニ関スル法律ニ通曉
スル上ハ必ス權利ノ收獲トハ果シテ如何ナル
モノニシテ如何ナル場所ニ於テ如何ナル方法
ヲ以テ之ヲ受ク可キモノヤノ問題ニ其意ヲ注
ク可シ然シテ若シ此等ノ問題ニ通曉セントス
ル時ハ宜シク裁判所官吏等ノ組織ヨリ及、因
テ以テ正理ヲ維持スル裁判上ノ職務方法及、

訴訟等ニ関スル制規ヲ知ラサル可カラズ即チ
此制規ハ之ヲ以テ訴訟法ト称スルモノニシテ
本旨ハ專ラ其一部タル米國ノ海上裁判所ニ関
スル訴訟法ヲ論スルヲ以テ目的トス然シテ此
訴訟法中ニハ海上裁判所ノ構成ヨリ及、其手
続ノ方法規則及、其職務上ノ權利義務責任等
ニ至ル迄載セテ漏ラヌモノナシ

海上裁判所ノ訴訟法ハ此等裁判所ノ裁判權及
ニ此等ノ裁判所ニ於テ弁理スル法律ノ制規等
ニ比スレハ未タ以テ其手續ヲ異ニスルモノナ
キニアラスト虽モ裁判所内ノ手續ニ至テハ今
ヤ大ニ一定セルモノトス何トナレハ此等ノ手
続ハ夙トニ他國ノ海上裁判所ニ於テ採用スル

モノヲ酌量シテ全国中之ヲ一定セントシ國會
ヨリ其往時ノ制法ヲ以テ全国中之ヲ一定ス可
キヲ定メテ爾後尚ホ一千八百四十二年ヲ以テ
海上ト航海上トノ訴訟ニ関スル一般ノ訴訟手
続ヲ制定ス可キヲ合衆國ノ大審院ニ委任セ
シヲ以テ諛院ニ於テ一千八百四十五年ヲ以テ
海上ニ関スル民事ノ訴訟手續ヲ規定スル規則
ヲ制定セシヲ以テナリ
海上裁判所ノ訴訟法ハ從來此法律上ニ從事セ
シ法律家ノ大ニ貴重セシ米國人ノ著者數多
リ即チホール氏ノ海上裁判所訴訟法ダンラツ
ク氏ノ海上裁判所訴訟法マツズ氏ノ海上裁判
所訴訟法等是レナリ故ニ若シ此等冊ノ著述

者中教年ノ間此法律上ノ欠典タリシモノヲ論
セシ者アルニ於テハ敢テ故ヲ本冊ヲ著ハス
ヲ要セス固ヨリ此等ノ冊ハ世人ノ能ク明知
スルモノニシテ海上裁判所ニ從事スル者ノ能
ク其事務ニ熟達スル者ニ在テハ一トシテ貴重
ス可キ冊ニアラサルナシト雖モ苟クモ法律
上ノ此部門ニ入りテ之ヲ講究スル初学ノ者ニ
於テハ其起源ノ簡單ニアラスシテ説明ノ不明
瞭ナルノ苦情ヲ唱ヘ然シテ恰カモ普通教育
ノ初学ノ幼童ニ教授スル冊ノ如キ簡單ニシ
テ明瞭ナル者ヲ希望スル者少カラザリキ
加之海上裁判所ノ裁判權ハ爾後國會ノ決議ヲ
以テ之ヲ擴張シテ已ニ海上貿易ノ場所トナリ

タル我カ大陸上ノ内海ト及レ之レニ附属スル
河川トニ至ル迄之ヲ及ホシ又我カ所領地ノ如
キハ漸次大平洋ノリンスト北氷洋
トニ至ル迄擴張シテ終ニ海上貿易ノ為メ六月
以上ノ航海ヲ為スモノ数多アリヲ為メ東洋
及レ海上ノ諸島ハ我カ国ノ最モ接近ノ地ト為
ルニ至リシヲ以テ従テ此法律モ亦其規則ヲ増
加セシモノ少カラズ然レテ若シ我カ此著述ノ
之ヲ以テ訴訟手續上ノ制規ニ必要タルモノト
シテ殊ニ国家ノ司法上ノ此部内ニ在テハ最モ
切要ナル彼ノ規則裁決等ヲ一定スルノ切ヲ奏
スルニ至ラハ余ハ職務ノ勉勵トシテ至極ノ褒
賞ヲ受ケントス

然レテ爰ニ此法律ヲ論スルニ当リ先ツ第一ニ
論ス可キモノハ如何ナル裁判所ニ於テ海上ニ
関スル訴訟ノ裁判權ヲ有スルヤノ問題はレナ
リ

第二章 裁判權

裁判權トハ之ヲ裁判所ニ適用スル時ハ全ク訴
訟ニ関スル双方ノ者ノ間ノ争訟ニ係ル主タル
条件ヲ聽紀裁断スルノ權利ヲ示スノ語トス然
レテ總テ裁判所ノ所行ハ其權内ニ属スルモノ
ト推外ニ属スルモノトノ二種アリ若シ法律上
某訴訟ノ裁判ヲ為ス可キ權カヲ某裁判所ニ委
任スル時ハ該裁判所ニ於テ其裁判權ヲ有シ然
レテ其為シタル所行ハ全ク其權内ニ属スルモ

ノトシ若シ又法律上斯ル推ヲ委任セサル時ハ
其訴訟ニ付該裁判所ニ於テ為シタル所行ハ全
ク其推外ニ屬シ然レテ該裁判所ニ於テハ其裁
判權ヲ有セサルモノトス
總テ裁判所ニ於テ有スル裁判權ハ国家ニ於テ
一種ノ獨立權トシテ有スル司法權中ノ一部ニ
屬スルモノトス然レテ国家ノ司法權ナルモノ
ハ全ク不羈獨立タルヲ要スルモノニシテ苟ク
モ自ラ制限スルニアラサルヨリハ他ヨリ得テ
之ヲ動カス可キモノニアラス若シ然ラズシテ
苟クモ他ノ権力ヲ以テ之ヲ制限スル時ハ從テ
其司法上ノ主權ヲ減殺シ然レテ其減殺シタル
主權ハ其制限ヲ為シタル他ノ権力ニ屬ス可シ

カ一
カ十三

モ国家ニ於テ其国内ニ行フ所ノ権力
ルニハ必ス全国ノ承諾ヲ以テセサル
ルモノニシテ敢テ他ノ権力ヲ以テ得
殺ス可キモノニアラス
司法權ハ憲法中ニ准許シタル其権限
ハ権力ヲ裁判所ニ配与スル國會ノ決議
トヲ以テ之ヲ制限スルカ故ニ合衆國ノ總テノ
裁判所ニ於テ有スル裁判權モ亦從テ一トシテ
其制限アラサルモノナシ然レテ此等ノ裁判所
ニ於テ其判權ヲ行フ可キモノハ憲法ト法律ト
ニ依ラ之ヲ行フ可ク定メタル訴訟争論及ヒ其
人々等ニ限レルモノニシテ如何ナル訴訟ニ依
ラス其訴訟ノ此等ノ憲法ト法律トヲ以テ定メ

ノトシ若シ又法律上斯ル推ヲ委任セサル時ハ
其訴訟ニ付該裁判所ニ於テ為シタル所行ハ全
ク其推外ニ属シ然レテ該裁判所ニ於テハ其裁
判權ヲ有セサルモノトス

總テ裁判所ニ於テ有スル裁判權ハ国家ニ於テ
一種ノ独立權トシテ有スル司法權中ノ一部ニ
属スルモノトス然レテ国家ノ司法權ナルモノ
ハ全ク不羈独立タルヲ要スルモノニシテ苟ク
モ自ラ制限スルニアラサルヨリハ他ヨリ得テ
之ヲ動カス可キモノニアラス若シ然ラスレテ
苟クモ他ノ権力ヲ以テ之ヲ制限スル時ハ從テ
其司法上ノ主權ヲ減殺シ然レテ其減殺シタル
主權ハ其制限ヲ為シタル他ノ権力ニ属ス可シ

故ニ苟クモ国家ニ於テ其国内ニ行フ所ノ権力
ヲ減殺スルニハ必ス全国ノ承諾ヲ以テセサル
可カラサルモノニシテ敢テ他ノ権力ヲ以テ得
テ之ヲ減殺ス可キモノニアラス

合衆国ノ司法權ハ憲法中ニ准許シタル其権限
ト及ビ其権力ヲ裁判所ニ配与スル國會ノ決議
トヲ以テ之ヲ制限スルカ故ニ合衆国ノ總テノ
裁判所ニ於テ有スル裁判權モ亦從テ一トシテ
其制限アラサルモノナシ然レテ此等ノ裁判所
ニ於テ其判權ヲ行フ可キモノハ憲法ト法律ト
ニ依ラ之ヲ行フ可ク定メタル訴訟争論及ビ其
人々等ニ限レルモノニシテ如何ナル訴訟ニ依
ラス其訴訟ノ此等ノ憲法ト法律トヲ以テ定メ

タル區域内ニ屬スルト否トニ依テ其推内ニ屬
シテ有効ニ存スルト否トノ別アリ然レテ此等
憲法制法等ノ之ヲ以テ裁判推ヲ附与スルニハ
二法共ニ其規則ヲ異ニスルヲ得ヌ又合衆国政
府ニ於テ有スル司法推ハ元來憲法上ニ依テ享
有スルモノニシテ之ヲ區分配与スルノ推ニ至
テハ全ク國會ニ屬スルモノトス然レモ其司法
推内ニ屬スル諸件ノ如キハ彼令憲法上明カニ
掲載スルモノニ係ルモ敢テ國會ノ推内ニ屬ス
ルモノニアラス他ナレ國會ナルモノハ元來裁
判所ヨリ其推力ヲ行フ可キ委任ヲ受クタルモ
ノニアラスサルヲ以テナリ故ニ若シ國會ヨリ憲
法上附与スルノ推アラサル推力ヲ附与スルモ

其之ヲ附与シタル國會ノ決議ハ全ク無効廢物
ニ屬スルモノトス
總テ裁判推ハ之ヲ分ツテ其種ノ場所ニ屬スル
モノトス人ニ屬スルモノト又ハ条件ニ屬スルモ
ノトノ三種トス
場所ニ屬スル裁判推 總テ訴訟犯罪及ヒ爭論
等ハ其裁判所ノ管轄内ニ於テ起ルカ故ニ其推
内ニ屬スルモノト又ハ其種ノ場所ニ於テ起ル
モノトノ別アリ然レテ犯罪ノ如キハ合衆国内
ノ或ハ堡砦ニ於テシ或ハ造兵所ニ於テシ或ハ
船具廠ニ於テ犯シ又ハ海上ニ於テ犯スモノア
リ然ル時ハ其犯罪ハ之ヲ犯シタル場所ノミ
ノ為ニ合衆国裁判所ノ推内ニ屬スルモノトス

即チ斯ル際ニ在テハ其裁判推ハ場所ノミニ屬
スルモノナリ
人ニ屬スル裁判推 又合衆国ノ裁判推ハ總テ
特命全權公使及ヒ其他ノ公使ニ對スル訴訟又
ハ合衆国或ハ合衆国ノ一州或ハ外国人等ノ原
被告人ノ一方タル訴訟等ニモ亦及フモノトス
即チ斯ル際ニ在テハ其裁判推ハ人ノミニ屬ス
スルモノナリ
条件ニ屬スル裁判推 又他ノ際ニ在テハ裁判
推ハ某種ノ条件ニ屬スルモノトス元來訴訟ノ
条件タル例ハ犯罪刑罰天然ト交際上トノ関
係契約義務職務權利惡事等ノ如ク苟クモ立法
上定メタル各事ニ関スル法律ノ異ナルニ從テ

各々異ナルモノニシテ此等ノ条件ハ司法上ノ
便宜ニ從ヒ各々異ナル裁判所ニ於テ之ヲ弁理
スルモノトス故ニ民事裁判所刑事裁判所又ハ
宗教軍事遺言等ニ関スル裁判所又ハ衛平租稅
萬国公法等ニ関スル裁判所又ハ海上航海等ニ
関スル裁判所各々異ナル裁判所ノ設ケアル
モノニシテ即チ此等裁判所ノ所轄ニ屬スル訴
訟ノ裁判推ハ各々其訴訟ノ起ル場所ノ為ソニ
之ヲ有スルニアラヌ又ハ其訴訟ノ原被告人タル人々ノ
為ソニモ有スルモノニアラスシテ全ク其訴訟ノ条件ノ為ソニ有スルモノナリ
總テ如何ナル裁判所ニ依ラヌ若シ訴訟ノ裁判
推ヲ有スル時ハ其裁判推ノ場所ト人トニ屬ス
ルモノト又ハ条件ニ屬スルモノトニ係ルヲ問

ハス從テ其裁判所ノ訴訟手續ニ從テ其原告
人双方間ノ争訟ニ係ル正理ヲ弁理スルノ推
リ又ハ若シ其裁判所ノ果シテ其裁判推テ有ス
ル至当ノ裁判所タルニ於テハ從テ其双方間ノ
争訟ヲ裁決シテ之ヲ執行スルニ必要タルノ推
アリ又ハ若シ其訴訟ノ本案ヲ裁決スルノ推
ル時ハ從テ其附帶ノ事件ヲモ裁決スルノ推
アリ又ハ若シ其訴訟ノ審判ニ着手ス可キ推
アル時ハ從テ之ヲ終結スルノ推アルモノト
然レ
モ若シ其訴訟ノ条件ノ其推限外ニ属スル
モノニ係ル時ハ其審判中ト虽モ他ノ裁判所
ニ移シテ之ヲ聽紀裁斷セシムルコト可シ
又裁判所ノ職務ハ其推力ト相平均スルモノ
トナリ

リ故ニ其委任セラレタル裁判推ヲ行フハ裁
判所ノ主タル職務タルカ故ニ其委任セラ
レサ
ル裁判権ハ之ヲ侵スノ權ナシトス
爰ニ合衆国裁判所ノ裁判推ニ関シテ往古ヨリ
起リタル問題ヲ論スルニ當テハ我カ政府ノ組
織上ニ依リ先ツ之ヲ分ツテ行政上ニ関スル
ト司法上ニ関スルモノトニ種ト為サル
可カラス然シテ此等ノ問題中其行政上ニ関
スルモノハ裁判所又ハ其構成等ニ付テ起リ
タルモノニアラスシテ全ク憲法上国家ノ行政
上ノ主權トシテ各州ノ政府ニアラサル合衆
国ノ大政府ニ許シタル推力ノ區域ニ関シテ
起リタル
憲法上ノ問題ニシテ即チ憲法上ノ規則ニ依
テ

開設セシキ一ノ國會ニ於テ其政府ニ屬スル司法權ヲ行フ可キ裁判所ヲ設立シテ新設ニ係ル政府ノ司法上ノ欠缺ヲ補ハントセシ時ニ當テ起リタルモノナリ又其司法上ニ関スルモノハ唯ク國會ヨリ國家ノ司法權ヲ行フ可キ権力ヲ委任シタル裁判所ノ裁判權ノ區域ニ関スルモノトス然リ而シテ憲法上國家ニ許シタルモノハ其憲法ヲ施行スルノ日ヨリ直クニ確定シテ得テ之ヲ動ス可カラザリシカ之レニ及シテ裁判所ノ構成裁判權及ヒ其権力ノ配与等ハ全ク國會ノ所轄ニ屬シテ常ニ當時ノ時宜ニ依テ必要ナル改正ヲ為セリ故ニ我カ米國ノ海上裁判所ノ裁判權ニ関スル問題ニ在ラモ英國ニ於ケル

カ如ク海上裁判所ト法律裁判所トノ間ニ於ケルモノニアラス何トナレハ米國ニ在テハ至當ニ海上裁判所ト稱ス可キ者ノ設ケナク又ハ合衆國固有ノ慣例法ヲモアラサルヲ以テナリ又ハ陪審審訊ト判事ノ審問トノ間ニ於ケルモノニアラスシテ全ク國家ノ政府ト各州ノ政府トノ間ニ関スルモノナリ故ニ此問題ノ此等政府ノ間ニ在テ常ニ之ヲ討論講究セシニ於テハ全ク當時ノ諸説ト異ナル結果ヲ生シ今ヤ此等ニ関スル難事ノ全ク解散シタルハ敢テ疑ヒ以テ先ツ爰ニ此問題ニ関スルモノヲ論シ然ル後其至當ノ裁判所タル者ニ関スル問題ヲ論ス可シ然シテ若シ其訴訟ノ果シテ合衆國政府

ノ推内ニ属スルニ於テハ其訴訟ヲ裁決ス可キ
裁判所ヲ確定スルハ蓋シ容易ナル可シ
元來合衆国ノ憲法中海上ト航海トニ関スル裁
判推内ノ総テノ訴訟ノ裁判推ヲ合衆国政府ニ
准許スルノ明文アリ是レ全ク此等ノ裁判推ヲ
准許スル所ノモノニシテ其明文タルヤ甚々簡
單ニ過クルカ故ニ米國ノ海上裁判所ニ於テ其
裁判推ヲ有スルト否トハ全ク其解釈ノ如何ニ
依ルモノトス然レテ其解釈ノ各々異ナル者五
種アリ即テ

一 此憲法上准許シタルモノハ唯々英國ノ
海上々等裁判所ニ於テ米國革命ノ時ヲ
以テ其推内ニ属ス可ク承認シタル訴訟

ノミニ限レルノ説

二 又英國ノ海上裁判所ニ於テ諛國ノ法律
裁判所ヨリ禁令状ヲ以テ海上裁判所ノ
其推力ヲ行フヲ停止シタリシ時ノ以前
ニ在テ曾テ其ノ裁判推ヲ有セシ總テノ
訴訟ヲ包含スルノ説

三 又唯々米國革命ノ時ヲ以テ設立セル英
國殖民地ノ副水師提督局裁判所ノ推内
ニ属セシ訴訟ノミニ限レルノ説

四 又唯々千七百八十八年ノ合衆国憲法ノ
頒布ニ先ツテ説立セシ各州ノ海上裁判
所ノ直轄ニ属セシ訴訟ノミニ限レルノ
説

五

又海上ト航海トハ單ニ主タル条件ヲ示
 スノ語ニシテ全ク各国ノ航海規則ニ依
 テ提起スル船舶、船積及、海上貿易等ニ
 関スル訴訟及、一般ノ航海律ニ依テ提
 起スル総テノ訴訟等ヲ包含スル其普通
 ノ意義ヲ以テ使用セシ者ニ係ルノ説
 然シテ此等ノ解説中其何レヲ以テ果シテ正当
 ノ解説ト為ス可キヤヲ確定スルニ当テハ先
 ヲ一ニ其憲法ニ関スル総則ト及、其著明ナル
 事實トヲ論セサル可カラズ然シテ此等ノ総則
 ト事實トハ固ヨリ此問題ニ直接ノ関係アルモ
 ノニアラスト虽モ尚ホ此問題ヲ講究スルニハ
 聊カ補益ナキニアラサル可シ

司法省記錄文庫

保
第八百八十八號
市三番八

米國海上法

第三

司法省

第三章 憲法ノ解釋ノ事

總テ憲法コンスタテハ其收用セル言句ノ意義ニ從テ解釋
 ス可キモノニシテ之ヲ制定シ或ハ編成スルニ
 當テハ苟クモ人民ノ同意ヲ以テスルニアラサ
 ルヨリハ漫リニ其意義ヲ變レテ言詞ヲ轉換ス
 ルヲ得ヘキモノニアラス然シテ人民ノ同意ヲ
 以テセシメテ表スルニハ人民一同ノ決議ニ依
 ルカ若クハ過半数ノ説ヲ以テ決定セサル可カ
 ラス

元來憲法ハ人民ノ相共ニ集会シテ充分討論ヲ
 尽シタルモノニシテ固ヨリ人民或ハ其代議士
 中其唇冊ニ掲載セシ如ク之ヲ解散セザリシ者
 アルノ理ナク全ク人民ノ同意ヲ以テ制定セシ

モノニ係ル^ルトハ其憲法中准許セル推カノ如キ
元ト人民ヨリ出テ人民ノ共ニ允許スルモノ
トスルノ一事ヲ以テ証スルニ足ルヘク殊ニ憲
法ナルモノハ之ヲ以テ政府ト人民トノ間ノ契
約ヲ為シタルモノニ係レハ人民ノ同意ヲ以テ
セシ^テ益々瞭然タルモノニシテ敢テ一人一個
ノ意見ヲ以テ制定セルモノニアラス又ハ一社
一党ノ意思ニ依テ制定セルモノニモアラス全
ク充分ノ討論商議ヲ尽シタル後公定ノ相共ニ
赤心ヨリ批准シテ合衆國ノ人民タル余輩ハ此
憲法ヲ設^テ制定スル旨ヲ公告シテ其各丹ニ揭
載セル如ク定メタルモノナリ
憲法中司法権及ヒ行政上ノ主権等ヲ允許セル

條款ハ簡單ニシテ尽セルモノトス然シテ其言
詞ノ如キハ一字一語ト雖各々意義アリテ敢
テ文飾ノ為ニ我用セシモノナク實ニ其文章
ノ如キハ最モ注意ヲ盡シテ撰定シタルモノニ
シテ其意義ヲ表示スルニハ其言詞中一トシテ
必要ニアラザルモノナレ

憲法ハ國家ノ法律ノ根元ニシテ敢テ法律ヲ編
成セシモノニアララス然シテ法律ノ効カアルノ
ミナラス共通常ノ意義ニ據ルハ反ツテ法律
ヨリモ一層有カナルモノトス又憲法ハ立法官
ノ制定セシモノニアラス全ク人民ノ制定シタ
ル國家ヲ組織スルノ法律ニシテ僅クニ教ヶ条
ヲ以テ政府ノ組織ヨリ國家ノ行政上ノ一般ノ

關係ト関涉トテ定メタルモナリ又其文章ノ如キハ簡單ナリト虽モ其意義明瞭ニシテ固ヨリ細事ヲ規定シ類例ヲ記列セルモノニアラス全ク國家ノ将来ノ行政推上ノ一般ノ原則ヲ定メ綱目ヲ規定セ及ヒ其分界ヲ制定セルモノナリ又憲法ハ某種ノ方法ヲ以テ國家ノ主權ヲ允許スルノ法律ニシテ衆テ之ヲ禁制スルノ法ニアラス故ニ之ヲ他ノ諸州ノ憲法ニ比スレハ自ラ霄壤ノ差アリ元素諸州ノ憲法ハ專ラ一州ノ主權即チ政府ノ權カヲ制限スルモノニシテ其主權ハ持リ一州ニ屬シテ苟クモ一州ノ所好ヲ以テ自ラ其權カヲ制限スルニアラサレヨリハ人

ノ生命自由財產及ヒ各人ノ行為ヲ管理スルノ權ハ持リ一州ニ屬スルモノトス合衆國聯合ノ憲法ヲ制定セサル以前ニ在テハ各州共ニ各々憲法ノ設ケアリシカ爾後國內ノ諸方ノ殖民地ニ内亂起リテ終ニ亞米利加大革命ノ亂ト爲リタル時ニ際シ緩急相助タルノ目的ヲ以テ各州相共ニ合同聯絡ニ然シテ一千七百七十六年ヲ以テ各々不羈獨立州タルヲ公告セシヨリ尔後同盟州タル各州ニ於テハ各々諸州ノ政府ヲ創立シテ善良ナル諸州政府ノ基本ヲ定メ然シテ國帝ノ特權、設事院ノ權カ及ヒ國家ノ大權等ハ總テ諸州ノ人民ニ歸シテ如何ナル所行ヲ以テスレモ之ヲ裁殺スルヲ得ス又ハ

如何ナル権柄ヲモ之ヲ羈絆スルヲ得ヘカラサ
ルモノトシ又各州各々其権カト獨立ノ政府ト
ヲ有シテ他州及ヒ他ノ諸國ニ對シテハ各々互
ニ外國タルニ異ナルヲ然シテ人民一同ノ
義務ヲ以テ一般ノ政府ヲ設ケテ之ニ人民ノ至
當必要ナリトスル権柄ヲ委任シ又ハ人民ノ所
好ニ依テハ此等ノ権柄ヲ擴張シ或ハ減殺シ又
他ノ最大ナル権柄ヲ允許スル等ハ一ニ諸州人
民ノ権内ニ存セリ尔後一千七百七十七年ニ當
リ此等ノ諸州相共ニ緩急相助クルノ目的ヲ以
テ會盟條例ト稱スル不朽ノ聯合條例ヲ制定シ
テ各州ノ権カヲ規定セシカ其後一千七百八十
九年ニ至リ尚ホ一層完全ナル聯合ヲ結ヒ且國

家ノ法律ヲ制定スル爲メ合衆國憲法ヲ撰定シ
テ今日ノ合衆國大政府ヲ創立シ然シテ之ニ其
憲法ノ條例ヲ以テ當時各州ト及ヒ其人民トニ
屬セシ権柄ヲ准許セリ故ニ今日ノ大政府ハ元
ト各州ノ同盟ヨリ成レルモノニシテ之ヲ以テ
合衆國ノ大政府ト爲シ然シテ各州ト及ヒ其人
民トヨリ主權ヲ合衆國ト及ヒ其人民トニ推讓
シテ全ク組織セシモノナリ
各州ヨリ大政府ヘ推讓セシ主權ハ左ノ諸件ナ
リトス即チ

各州ニ於テハ外國ト條約或ハ同盟ヲ爲スハ
カラサル事
各州ニ於テハ敵船捉奪ノ權辱及ヒ敵物捕拿

ノ推昏ヲ発出スヘカラサル事

各州ニ於テハ貨幣ヲ鑄造スヘカラサル事

各州ニ於テハ負債証各ヲ發行スヘカラサル

事

各州ニ於テハ金銀貨外ノモノヲ以テ負債ノ

弁償ニ立ツ可カラサル事

各州ニ於テハ没産令^{ビレコフスアッテイレンダ}没産令^{レト}ハ人^ノ血統^トシテ

以テ本^ノ人^ノ若クハ其子孫ニ傳フヘキ財産ヲ承

ヲ設ク可カラサル事

各州ニ於テハ^{インテリト}後擬法^ノ後擬法^ケ法^トハ未^ルニ法律

後^ニ犯^シ擬^シ定^スル^所業^ノヲ^法罰^スル^ヲ為^スヲ^設ク^ヘカ

サル事

各州ニ於テハ契約ノ義務ヲ廢壞スルノ法律

ヲ設クヘカラサル事

各州ニ於テハ人ニ貴族ノ爵號ヲ授與スヘカ

ラサル事

各州ニ於テハ其物産ノ検査法ヲ執行スル為

メ特ニ必要ナル時ヲ除クノ外國會ノ承諾ヲ

得ヌシテ諸ノ輸出入品ニ貢稅ヲ賦課スヘカ

ラサル事

各州ニ於テハ國會ノ承諾ヲ得ヌシテ噸稅^ノ船

入^ル港^ニス^ル時^ニ其^ノ大^小ニ^從テ^ラ賦^課ス^ヘカ

又ハ平和ノ時ニ於テ兵卒或ハ軍艦ヲ備具ス

可ラス又ハ他州或ハ外國ト契約或ハ協合^ニ

約^ス協^合例^ハ條^約盟^約為^ス等^ノ如^キ公^然ケ^ル疆^界ノ

又^ハ兩^地内^ノ部^互相^便益^ヲ協^和等^ニテ^ハ係^ス音^ヲ云^フ別^ノ

ヲ為スヘカラナレ事

然テ此等ノ諸件ハ主権中最モ本元ノ權利ニシ
テ苟クモ此等ノ諸權ヲ有セサルニ於テハ未
以テ主権ヲ有スルノ獨立州ト称スルニ足ラス
ト虽モ我々同盟州ニ於テハ一州トシテ此等ノ
諸權ヲ有セシモノナク然ラズ此等ノ諸權ハ之レ
ニ國家ノ主権中ノ他ノ諸種ノ權力即チ外國ト
ノ通商及ヒ内國諸州并ニ印度人種トノ貿易ヲ
規定スルノ權及ヒ海上航海上ノ裁判權内ニ屬
スル然ラズノ訴訟ニ至ル迄管轄スル裁判權等ヲ
備セテ之ヲ合衆國ニ允許スルモノナリ
此等ノ合衆國ニ允許セル諸權中ニハ充分ノ權
カヲ以テ大政府ノ基本トスル權柄ヲ推讓スル

モノアリ又ハ若干ノ制限ヲ以テ推讓スルモノ
アリ又ハ各州聯合條例中ニ制限スルモノヲ除
クノ外全ク制限ナキ主権ヲ有シテ現ニ之ヲ施
行スル各州政府ヨリ推讓セルモノアリ又各州
同盟以前ノ人民ニアラステ全ク同盟ニ加入
シテ合衆國憲法ヲ遵守スル人民タル合衆國人
民ノ允許セルモノアリ故ニ此等ノ主権中大政
府ノ基本トスル權柄ハ人民ヨリ直チニ允許セ
ルモノニシテ此等ノ權柄ハ我々政府ノ組織上
ヨリ着テ人民ヨリ生スルモノトシ又其大政府
ノ基本ノ一部タル權柄ハ諸州ノ政府ヨリ推讓
セルモノナリ然レテ此等ノ主権ハ元々人民ノ
名ヲ以テ大政府ニ推讓セシモノニ係ルカ故ニ

苟クモ合衆國人民タル者ハ之ヲ行政權ノ基本
トシテ認定セサルモノナシ故ニ之ヲ行フニ當
テハ其至當ノ區域ニ至ル迄ハ他ノ羈絆ヲ
受クルヲナク唯タ憲法中ニ定メタルモノヲ除
クノ外ハ全ク其制限ナク獨立獨行スルモノナ
リ即チ差ニ之ヲ例スルニ國安ヲ維持シ開戦ヲ
公布スルノ權万国ノ高議ニ參與スルノ權貨幣
ヲ鑄造スルノ權特命全權公使ニ對スル訴訟及
ト海上航海ノ裁判權内ニ屬スル訴訟等ヲ裁
判スルノ權及ヒ其他ノ權柄等ハ總テ大政府ニ
推讓セルモノニシテ之ヲ行フニ當テハ毫モ他
ノ羈絆ヲ受クルヲナク全ク獨立獨行スルモノ
ナリ

總テ憲法中ニ准許セル權柄ハ其憲法中ニ掲ケ
タル目的ノ為メ大政府ニ允許セルモノニシテ
此等ノ權柄ハ各々其目的ニ從テ解釈スヘキモ
ノナリ然シテ憲法ハ一層完全ナル聯合ヲ結ビ
國家ノ法律ヲ制定シ國內ノ治安ヲ維持シ各州
供同ノ防衛ヲ設ケ國內一般ノ幸福ヲ致シ及ヒ
國內ノ人民並ニ其子孫ノ享有スル自由ノ賜物
ヲ保全スル等ヲ目的トシ合衆國人民ノ相共ニ
制定セルモノニシテ其第一ノ目的トスル所ハ
專ラ萬國ニ對シテ各州相共ニ合同聯絡スルノ
一事ニ在リテ其他ノ目的ニ在テハ一トシテ是
レヨリ重要ナルモノナレ故ニ此各州合同聯絡
スル為メ允許セル權柄ハ憲法中ニ准許セルモノ

ノ、最ニ主タルモノニシテ此等ノ權柄中殊ニ
外國ノ人民ト各州ノ人民トノ交通ヲ規定スル
ノ權及ヒ各州ノ人民ヲシテ各々外國人民ト同
等ノ權利ヲ得セシムルノ權等ノ如キハ專ラ大
政府ヲシテ假令國家ノ他ノ事務ニ付テハ各州
ノ人民各々異ナル社会ニ生存スルト是レ外國
ト交通ヲ為スニ當テハ各州ノ人民ヲシテ万国
交通ノ規則タル法律ト習慣トヲ明知スル人民
ノ一家族ソルカ如キ規則ヲ設ケシノ且各州ヲ
シテ互ニ相抵觸スルノ法律ヲ設ケルヲ禁シ又
各州人民ノ因テ以テ合衆國人民タル聯絡ヲ破
壞スルヲ防遏セシムル等ノ為ソ各州人民ノ相
共ニ擧ケテ大政府ニ推讓セシモリナリ

是ノ如キモノハ則チ憲法中裁判權ヲ准許セル
モノヲ以テ最ニ能ク之ヲ証スルニ足ル可レ元
來此等ノ憲法中ニ准許セル裁判權ハ合衆國ノ
裁判所ニ允許セルモノニアラヌ憲法ニ於テハ
合衆國大政府ニ屬スル訴訟ト諸州ノ政府ニ屬
スル訴訟トノ區別ヲ規定シ然レテ訴訟ノ重大
ナルモノハ敢テ英國ノ海上裁判所ノ如キ構成
ニ係ル裁判所ニアラヌ又ハ英國ノ法律裁判所
衡平裁判所等ノ如キ裁判所ニモアラヌシテ全
ク新クニ創立セル政府ノ國會ニ於テ設立スヘ
キ裁判所ニ於テ其制定スヘキ方法ヲ以テ其裁
判權ヲ行ハシメンカ為シ各州ノ人民ヨリ之ヲ
大政府ニ推讓セシモリナリ然レテ憲法ヲ制定

セシ時ニ當テハ未ク一モ合衆國裁判所ノ如キ
モノ、設ケナク又ハ純粹ナル海上裁判所ノ如
キモ〔米國ニ在テハ曾テ斯ル裁判所ノ設ケアラ
サルカ故ニ〕固ヨリ其設ケアルノ理ナシト云ヒ
各州ト万国トノ通商貿易ノ通路タリシ大洋海
上湖水河川上ノ諸種ノ事件ニ付テ始終訴訟ノ
絶ヘサリシハ敢テ疑ヒテ容レ可カラズ然シテ
其判決ヲ為スニ當テハ固ヨリ諸州ノ立法裁判
各々異ナルモノアルカ故ニ從テ諸規則モ亦各
々異ナレモノアルヲ免カレ可カラザレニ依リ
若シ彼我ノ規則互ニ相抵觸スルハ万国公法
ト海上貿易法即チ万国航海律トノ規則ニ依ラ
サレハカラザルハ論ヲ俟タズ故ニ海上航海上

ノ裁判權内ニ屬スル訴訟ノ裁判權ハ總テ之ヲ
國家ノ大政府ノ司法權内ニ委ヌルニアラスン
ハ他ニ一モ万国公法ノ一部タル一般ノ航海律
ノ治理ヲ一定スルノ方法ナラハレ
合衆國政府ヲ看テ英國ノ政府ト相関係スルモ
ノト認定スルハ誤謬ノ甚シキモノト云フヘシ
然シテ合衆國ナルモノハ往々大英國ノ支國ト
思考スル者アルノミナラス歷史上ニ於テハ全
ク大英國ヨリ分離セル支國ト爲シ米國大革命
ノ時諸方ノ殖民地ニ住居セシ人民ハ英國人ノ
子孫ナリトセリ固ヨリ各州ノ多クハ元ト大英
國ノ政府ヨリ分離セシモノニ係ルヲハ實ニ世
久ノ言ノ如シ故ニ各州共ニ英國ノ慣例法ヲ遵

守セサルモノナシ是故ニ我カ米國政府ノ組織
権カ等ニ関スル條件ヲ講究セシトスルニハ宜
シク先ツ余輩カ彼ノ大革命ニ依テ以テ分離セ
シ國ニ於ケルモノヲ講究セサル可カラス然レ
テ我カ國ニ於テ採用セル國語ト文字トノ如キ
ハ該國ニ於ケルモノト同一ナリト雖ヒ我カ人
民ニ至テハ該國ノ人民ト同一ノ人種ニアラス
全ク英吉利蘇格蘭愛爾蘭ウヘールス和蘭陀ス
ヘーテシ佛蘭西等ノ文明各國ノ人民ヨリ組織
セシモノニシテ此等ノ人民ハ或ハ米國ノ所領
ヲ往復シ或ハ米國ニ移住シテ以テ米國ノ人民
ト混同結合シ然シテ各ニ其本國ノ制規ヲ共ニ
齎シ来リテ各々之ヲ採用セリ又ハ一部ノ殖民

地ヲ往復シ之ニ他ノ法律ト習慣トヲ移シテ一
州ヲ起セシモノモ亦少カラス
然シテ總テ此等ノ各國中船舶ヲ所有シテ海上
貿易ヲ為シタル國々殊ニ英吉利等ニ於テハ海
上航海上ノ裁判權内ニ屬スル訴訟ノ常ニ絶エ
ルトナタリシカ此等ノ訴訟ハ各國共ニ各々異
ナル裁判所ニ於テ之ヲ判決セリ然シテ此等ノ
各國中ニハ或ハ領事裁判所商事裁判所航海裁
判所又ハ海上裁判所等ヲ設ケテ專ラ此等ノ訴
訟ヲ其權内ニ屬セシモノアリ或ハ英國ニ於テ
ルカ如ク合衆帝國內ノ總テノ法律裁判所ト衡
平裁判所トニ於テ之ヲ受理シテ全ク海上貿易
ヲ為ス國々ノ承諾ヲ以テ規定セル航海律ノ制

規ニ從テ裁決セシモノナリ
蓋シ我カ憲法ノ制定者ヲシテ其創立セシ如ク
新タニ一政府ヲ起サシメシニ至リシハ此等ノ
事情モ亦共ニ預リテ之ヲ誘導セシニ依ルヘシ
然シテ此等制定者ノ政府ヲ創立スルニ當テハ
毫モ偏頗ニ流レヌ又ハ當時成立スル各國ノ政
府ヲモ模範トセス又ハ各國ノ法律ヲモ採用セ
ス全ク各國ノ制規ヲ傍觀ニ附シテ社会ノ人類
中当時ノ國々ニ於テモ又ハ往古ヨリノ歴史上
ニ於テモ未ダ曾テ一モ先例模範アラサル一種
特別ノ憲法ト法律トヲ制定セリ故ニ憲法上准
許セル權カハ唯ク其推カノミヲ模範シテ之ヲ
准許セルモノニシテ教テ他ノ政府ニ於テ有セ

ルカ如キ推カヲ准許セシモノニアラヌ然レテ
憲法ハ唯ク之ヲ以テ新クニ制定セル政府ニ於
テ行フヘキ其職權ノミヲ規定セルモノニシテ
之ヲ行フニ當テハ全ク既往ノ方法ノ如何ニ関
セヌ政府ニ於テ規定セル方法ヲ以テスヘキモ
ノトス

斯ノ如ク合衆國ノ政府ト法律トハ全ク憲法ヲ
以テ制定セルモノニシテ敢テ大英國ヨリ分離
セルモノニアラス又ハ該國政府ノ組織ニ類似
スルモノニモアラヌ又我カ憲法ナルモノハ大
革命ノ後即チ各州聯合ニテ獨立ヲ爲シタル時
ヨリニケ年ノ後ヲ以テ制定セルモノニ係リテ
教テ他國ノ法律ヲ採用セルモノニアラス全ク

合衆國人民ノ相共ニ制定セシモノニシテ又英
國ニ於ケルカ如キ組織ハ該國ノ法律裁判所又
ハ制規等ニ付テ云フニアラズ憲法ニ於テモ又
ハ會盟條例ニ於テモ毫モ之レニ模倣セシモノ
ニアラサルヲ以テ決シテ該國ノ制規ヲ我カ政
府ニ代用セシモノト爲ス可カラズ及テ人民ノ
相共ニ集合シテ憲法ヲ制定セントスルノ日ニ
當テハ英國ニ於ケル制規先例等ハ異口同音ニ
之ヲ擯却セナリニ者ナク然レテ憲法ヲ制定ス
ルニ當テハ此等ノ制規ハ勿論尚ホ且此等ノ制
規ヲ想起スルキ者ト雖モ悉ク之ヲ廢却セリ又
ハ英國ノ慣例法ノ如キモ諸州中之ヲ其法律ト
シテ收用セシモノナキニアラズト雖モ決シテ

之ヲ合衆國ノ法律トシテ祖先ヨリ傳承シ又ハ
更ニ公布シテ收用セシモノニアラス
我カ憲法及ヒ法律等ハ英語ヲ以テ記載スルモ
ノニ係レカ故ニ其言詞ノ意義効力等ヲ講究ス
ルニハ固ヨリ英語ニ付テ講明セサルヘカラサ
ルハ論ヲ待タズ是レ我カ大政府ノ法律制規等
ノ他國ニ於ケルモノト連結スル鏈環ハ唯々此
一事ニ過キヤルナリ故ニ憲法又ハ法律中衡平
法。慣例法。海上律。航海律。羅馬法。陪審制。重罪等
ノ言詞ヲ適用スル時ハ此等言詞ノ意義ヲ證明
スルニハ必ズ英國ノ法律ト字書トニ依ラザレ
可カラズ然リト雖モ之レカ爲ソ我カ國ノ裁判
所ノ構成裁判權又ハ此等裁判所ニ於ケル判決

ノ規則等ヲ講究スルニ當テモ亦英國ニ於ケル
ト同一ノ意義ヲ以テ解釈セサル可カラサルノ
理アルハカラス

爰ニ尚ホ宜シク論ス可キモノアリ元來憲法中
ニ准許セル海上航海ノ裁判權ハ單ニ國家ノ
司法權ニ委任セルモノナリ其明文ニ曰ク合衆
國ノ司法權ハ一ノ高等ナル裁判所ト及ヒ其他
國會ニ於テ何時ニ依ラス設立スヘキ下等ノ裁
判所トニ委任スヘシ又曰ク司法權ハ海上航海
上ノ裁判權内ニ屬スル總テノ訴訟ニ至ル迄及
フ可シト然シテ他ノ諸國ニ於テハ各國共ニ水
師提督官タル者ハ其委任セラレタル司法上ノ
職務ニ関スルモノ、外高ホ其海軍上ノ官職ト

及ヒ高等ナル行政官トシテ皇帝ノ教多ノ特權
ヲ委任セラレシ官職ト地位トニ依テ非常ノ權
カト責任權利ト有シ皇帝ニ次テ最モ高官ヲ
有スル海軍ノ指揮官トシ尚ホ更ラニ特許ヲ以
テ之レニ海上裁判所ノ裁判權ヲ委任セリ然レ
モ此等水師提督ノ權内ニ屬セシ權力中共行政
立法上ニ屬スルモノ、如キハ米國ニ於テハ一
モ水師提督官ノ權内ニ屬セス水師提督官ノ權
飾物賞典特權及ヒ給料等ハ全ク諸州政府ノ權
内ニ屬シ其司法上ニ屬スル職務ノ如キハ唯々
彼我ノ間ニ起リタル航海上ニ関スル訴訟ニ於
テノニ判事ト裁判所トニ於テ之ヲ行フモノニ
シテ敢テ水師提督ノ權内ニ屬スルモノニアラス

又ハ其代負ノ權内ニモ屬スルモノニアラス
然シテ此裁判權ハ最モ簡單ニシテ最モ明瞭ナ
ル言詞ヲ以テ合衆國ニ允許セルモノニシテ其
之ヲ允許セル明文ノ如クハ唯タ裁判所ニ於テ
訴訟云々ノ外他ニ法文アラサルナリ
然シテ其法文中唯タ訴訟ノ外他ニ明文アラサ
ルヲ以テ觀レハ其訴訟中ニハ海上航海上ノ裁
判權内ニ屬スル總テハ訴訟ヲ包含スルハ論ヲ
俟タサルモノニシテ實ニ此總テハ訴訟云々ノ
明又ヨリ他ニ一層簡單ニシテ明瞭ナルモノア
ル可カラス然シテ此明文ニハ一モ之レカ例外
ナク又ハ制限ヲモアラサルモノナリ
元來合衆國大政府ノ司法權ニ委任セル訴訟ハ

其類二種アリ甲種ニ於テハ其裁判權ハ全ク訴
訟ノ種類ニ屬スルモノニシテ敢テ原告人ク
ル者ノ身位ニ屬スルニアラス之レ一反レ乙種
ノ裁判權ハ全ク原告人タル者ノ身位ニ屬ス
ルモノニシテ敢テ訴訟ノ種類ニ屬スルモノニ
アラス是レ前章ニ於テモ既ニ論述セル如ク全
ク憲法ノ目的ト種類トニ依テ自然ニ生スル所
ノ區別ニシテ即チ特命全權公使及ヒ其他ノ公
使領事等ニ對スル總テハ訴訟又ハ各々異ナル
州ノ人民間ニ起リタル訴訟等總テ此等ノ訴訟
ニ於テハ其裁判權ハ全ク其原告人タル者ノ
身位ニ屬シ又此憲法ニ依テ提起スル法律衡平
二法上ノ總テハ訴訟又ハ海上航海上ノ裁判權

内ニ属スル總テノ訴訟等總テ此等ノ訴訟ニ於
テハ其裁判權ハ全ク其訴訟ノ主タル條件ノ種
類ニ属スルモノニシテ敢テ原告人タル者ノ
身位ニ属スレモノニアラヌ
又此等ノ訴訟ニ於テ其裁判權アルト否トハ敢
テ英國又ハ其他ノ諸國ニ在テハ如何ナル裁判
所ニ於テ其裁判權ヲ有スルト否トノ如何ニ依
ルモノニアラヌ唯テ法律衡平ニ法上ノ訴訟ニ
於テ其裁判權アルト否トハ果シテ其訴訟ノ合
衆國ノ憲法ト法律トニ從テ提起セルモノニ係
ルト否トノ如何ニ依ルモノトス故ニ海上航海
上ノ裁判權内ニ属スル訴訟ニ於テ其裁判權アル
ルト否トハ全ク其訴訟ノ海上又ハ航海ニ関ス

ルト否トノ如何ニ依ルモノニシテ敢テ英國
ニ於テハ海上々等裁判所或ハ「キンクスベン
チ」廳或ハ「イツキスタイヤカ」廳或ハ「衡平裁判所
ニ於テ陪審ノ參席ヲ以テ或ハ參席ヲ以テセス
シテ審問スルト否トノ如何ニ依ルモノニアラ
ヌ

右記載セル憲法上ノ能ク注意講究セル文章ヲ
解説スルニ當テハ其章中重要ニアラサル言詞
アルトハ余輩ノ容易ニ得テ之ヲ断言スヘキモ
ノニアラヌ又ハ總テノ言詞ノ如キ其言詞ヲ棄
却シ或ハ其言詞ノ至当ナル意義ヲ收奪スルヲ
得ヘキモノニモアラヌ又ハ訴訟ノ些少ニシテ
不定ナルモノヲ示シタルモノトモ解説スルヲ

得ス又ハ區域或ハ制限ヲモ附加スルヲ得ヘキ
モノニアラス然シテ此憲法ニ依テ提起スル法
律衡平ニ法上ノ總テノ訴訟云々國人間ノ總テ
ノ訴訟云々特命全權公使ニ對スル總テノ訴訟
云々等總テ此等ノ條款ニ於テハ各々其制限ア
ルモノニシテ唯ク其制限ヲ一條ノミニ記入シ
テ他ノ條款ニ記入セザル所以ノモハ他ナシ
全ク重複ヲ免カレシカ爲ノナリ若シ夫レ然ラ
スシテ我カ立法權ト司法權中ニ始終大英國ニ
於テ施行シ或ハ規定ス可キモノヲ允許セシト
セシニ於テハ蓋シ其條款ノ下ニ英國ニ於テ「キ
ングスベント」^テ廢ヨリ何時ニ依ラス該國ノ海上
上等裁判所ハ裁判權ヲ委任スヘキ總テノ訴訟

云々ノ教語ヲ加フルハ敢テ難キニアラサルハ
シ

第四章 海上及ヒ航海律ノ事

合衆國ノ憲法中ニ通用スル海上ナル語ハ固ヨ
リ得テ其至當ノ効用ヲ收奪スヘキモノニアラ
スト且此語クルヤ各國ノ航海規則中ニ屢々
使用スルモノニシテ殊ニ元ト水師提督ノ管轄
内ニ屬セシ訴訟ノ部類ニ通用スルモノニ係ル
然シテ其字義ノ起源ノ想像說ノ如キハ勿論高
木且一層正確ナル論說ト虽モ敢テ爰ニ之ヲ論
スルヲ要セス他ナシ此等ノ諸說ハ拳ナ水師提
督ノ官名ト其職務間ノ關係ヲ証明スルモノニ
過キサルヲ以テナリゴードルヒシ氏其著述ノ

海上裁判權論ノ第一章中ニ言論ノ起源及ヒ其
諸種ノ名称ナル標題ヲ設ケテ之レヲ論セシカ
讀者ノ之ヲ一読セハ蓋シ珍説タルヲ登見ス
可シ

総テ航海ノ盛ナル國々ニ於テハ例ハ航海條
例港江河川船舶等ニ関スル規則又ハ溺死人破
船河川ノ妨害魚獵ノ禁制國帝ノ魚獵及ヒ其他
海上等ニ関スル海上ノ取締規則等ノ如ク各國
共ニ船舶船積及ヒ其他航海ノ條件ニ関スル
一種特別ナル法律ノ設ケアラサルヲ然シテ
此等ノ法律中其水上ト船舶トニ関スル法律ノ
執行ハ各國共ニ元ト國帝ノ特權タル行政立法
ノ二大權ノ一部ヲ掌握スル水師提督ノ權内ニ

屬シ別ニ海上裁判所ヲ設ケテ此等法律ノ違反
者ヲ罰スルノ所トシ又若シ必要タル時ニ於テ
ハ該裁判所ノ處分ヲ以テ此等ノ地方海上等ニ
関スルノ法律ヲ執行セリ是レ各國ノ海上律ニ
シテ総テ此等ノ法律ニ依テ提起スル訴訟ハ全
ク海上ノ裁判權内ニ屬シ又各國共ニ各々別ニ
其所好ヲ以テ増減変換スヘキ海上法ノ設ケア
ラサルヲ然レ此我カ米國ニ在テハ水師提督
ノ特權タル行政權ノミハ他國ニ於ケルカ如ク
曾テ其權内ニ屬セシメナシ、
航海ナル語モ亦全ク海上ニ関スルノ意義ヲ示
スモノニ係ル然シテ合衆國ノ憲法及ヒ國會ノ
決議中ニ適用スル如ク海上及ヒ航海ノ兩語ハ

假令訟廷ニ於テハ有各ノ法律家中ニモ各々異ナル解釈ヲ下セシ者徃々之アリト虽凡敢テ然ニアラズ全ク相共ニ同一ノ意義ヲ示スモノニシテ元此等ノ兩語ヲ記入セシ所以ノ者ハ他トシ蓋シ若シ此等ノ一語ノミノ外適用セサルニ於テハ其一語ノミニ拘泥シテ一層狹隘ナル解釋ヲ為スノ恐アルヲ以テ故ラニ此等ノ兩語ヲ記入セシニ外ナラサルナリ然シテ英國ニ於テハ海上ヨリ生スル訴訟ノ裁判權ハ假令全ク航海上ニ實スルモノニアラズト虽モ總テ海上裁判所ノ權内ニ屬セシカ我カ未國ニ在テハ此等兩語ヲ適用セシヲ以テ此等ノ間ニ一モ區別アルヲナシ

航海上ニ関スル訴訟トハ之ヲ知言スル時ハ全ク航海律ニ依テ提起スルモノヲ云フ然シテ航海律トハ一國一州ノ法律ニアラス又ハ一國一州ノ政体習慣等ニ從テ制定セシモノニモアラズ全ク海上ノ條件ニ関スル商人航海者等ノ通商貿易等ヲ規定スル為ノ世界中通商貿易ヲ為ス國々ノ一般ノ便益ト公理正道トヲ以テ制定セル公正ノ規則ト貿易上ノ習慣トヨリ成ルモノトス
此航海律ハ毫モ之ヲ收用ス可キ裁判所ノ管理ニ屬スルモノニアラズト虽凡之ヲ收用スル裁判所ニ於テハ之ヲ以テ航海上ニ関スル訴訟ヲ判決スルノ規則ト為サ、ルモノナク然レテ之

ヲ收用セシ國々ニ於テハ各國共ニ各々異ナル
方法ヲ以テ設立セル各々異ナル裁判所ニ於テ
之ヲ收用セシカ此等ノ裁判所ハ或ハ之ヲ稱シ
テ海上裁判所トスルモノアリ或ハ航海裁判所
ト稱スルモノアリ或ハ領事裁判所ト稱スルモ
ノアリ或ハ商事裁判所ト稱スルモノアリ然シ
テ英國ニ於テハ主トシテ海上裁判所ト稱平裁
判所トニ於テ之ヲ收用シ然シテ眞理ハ訴答并
論中ニ之ヲ覓見スヘキモノトセリ然レモ若シ
詐偽ノ管轄地名ヲ使用シテ告訴ヲ為スヤハ倫
頓府ニ在テハ「キングスベシ」廳ニ於テ其裁判
權ヲ收奪シテ海上裁判所ヲシテ其裁判權ヲ行
フトヲ禁セリ故ニ英國ニ於テハ海上裁判所ヨ

リハ反テ「ギンクスベシ」廳ト及ヒ殊ニロルド
マンスフオールド氏トニ依テ航海律ヲ確定擴
張セリ又英國ニ於テハ海上律中國家ノ租税ニ
実スルモノハ海上裁判所ノ管理ニ屬セスシテ
全ク同一ノ方法ヲ以テ「イッキステイカル」廳ノ
管理ニ屬スルモノナリ
總テ水師提督ノ權内ニ屬セシ裁判權及ヒ海上
律即チ地方航海律等ノ管理ハ爾後各國共ニ之
ヲ裁判所ノ職務トシテ裁判所ノ權内ニ屬セリ
故ニ今日ニ在テハ海上律及ヒ航海律等ハ各國
共ニ裁判所ニ於テ之ヲ管理セサルモノナシ然
シテ此等ノ二法ハ或ハ之ヲ稱シテ海上律ト云
ヒ或ハ航海律ト云ヒ或ハ海上航海律ト云フ

モノニシテ又此等ノ法律ニ依テ提起スル訴訟
ハ之ヲ海上航海上ノ裁判權内ニ屬スル訴訟ト
ス

又航海ノ盛大ナル國々ニ於テハ各國共ニ此等
地方ノ海上律ト一般ノ海上律トノ二法トヲ輯
集シテ其自國ニ於テ編成セル航海ノ法律各中
ニ編入セサルモノナシ然シテ此等各國ノ航海
律ノ如キハ本昏中世界中ノ文明各國ニ於テ即
今收用スル航海律ヲ專ラ論スル時ヲ待テ尚ホ
論スル所アルハ也

合衆國憲法ノ制定者ノ果テ如何ナル意義ヲ以
テ海上ト航海トノ兩語ヲ使用セシヤラ尚ホ講
究スルニハ先ツ主トシテ憲法ノ制定者ノ其心

中ニ暗記シタル可シト思料スル英吉利蘇格蘭
英國所屬ノ亞米利伽殖民地米國同盟ノ各州及
ヒ佛蘭西等ノ諸國ノ海上航海上ノ制規ヲ講究
セサル可カラス何トナレハ我々憲法ヲ制定セ
シ時代ニ在テハ英吉利蘇格蘭亞米利伽佛蘭西
等ノ諸國ハ世界中海上貿易ノ最モ盛大ナル國
々ニシテ又我々政府ノ基礎ヲ組織セル有名ナ
ル人々ハ敢テ他國ノ政體ニ倣ハサリシヲ以テ
觀レハ決シテ此等諸國ノ航海裁判所ノ組織ヲ
明知セサルノ理ナク全ク能ク之ヲ明知シテ其
組織ニ倣ハサリシハ誠ニ故ハアル可キヲ以テ
ナリ

第五章 英國ノ海上裁判所ノ事

英國海上裁判所ノ往古ノ裁判權ノ事

英國海上裁判所ニ於テ往古ヨリ數百年ノ間現ニ行ヒシ裁判權ハ其權限廣大ニシテ違約狂害等ノ概海上ニ関スル總テノ民刑事上ノ訴訟ヨリ海上或ハ外國所屬ノ海上ヨリ生スル總テノ訴訟ニ至ルマテ悉ク其權内ニ屬セリ然レテ之ヲ論スルニ當テハ先ツ其證據トカレハキモノノ大要ヲ論シ然ル後其裁判權ヨリ次テ之レニ関スル一層貴重ナル各類型ニ論及スルモ敢テ贅言ニ涉ルニアラサルヘシ

元來英國ニ於テハ別段制定法ヲ以テ海上裁判所及ヒ其他ノ上等裁判所ヘ裁判權ヲ附與セシ

モノニアラス全ク「チヤンセリ」廳「キニクス」ヘシ「チ」廳「ゴ」モ「ニアリ」ス「廳」イ「ツ」キ「ス」テ「イ」ハ「ル」廳及ヒ海上裁判所等ノ諸裁判所ハ皆テ拳ナ皇帝ノ特權ニ屬スルモノトス故ニ此等裁判所ニ其裁判權ヲ允許セルト及ヒ之ヲ擴張セシメノ證據トテ講究スルニハ苟クモ制定法ヲ以テ制限セルモノヲ除クノ外ハ皇帝ヨリ委任命令セル權各ニ依ラサルヘカラス

英國ニ於テハ往古ヨリ鞏固ニ至ル迄水師提督ヲ命スルニハ最モ明瞭ナル言詞ヲ以テ造レル特許狀ヲ以テ之レニ最モ廣大ナル裁判權ヲ委任セリ然シテ其特許狀ハ通常左ノ言詞ヲ以テ造レシモノトス即チ爰ニ余輩ハ何某ニ英吉利

愛爾蘭ハ一ルス及ヒ此等ニ附属スル所屬地
諸島等ニカレリスノルマデীগア
クイテーン等ノ水師提督ノ官職ヲ委任シテ我
カ水師提督タルヘキヲ命ジ候セテ英吉利愛
爾蘭又ハ其所屬地中ノ海上若クハ大河若クハ
海水ノ流入スル河川急流若クハ此等ニ接連ス
ル海岸港若クハ此等ノ最モ海上ニ接連スル橋
下ニ於テ其他如何ナル場所ヲ問ハス海上ニ於
テ起ルル許認ノ負債為換券保險証書計莫各
雇船証書積荷目録及ヒ其他雇船ノ船賃トシテ
延滞ニ或ハ船舶ヲ雇入ルル為メ貸附シ或ハ海
上ニ於テ借主ヨリ弁償スルヘキ約ヲ以テ貸附セ
シ金額ニ関スル契約等ニ其他ノ事件損害等ニ

ナリ
愛ニソヨリテ氏ノ論スル所ニ依レハ水師提督
官ニ撰任スル特許状ハマリイ女帝ノ即位ノ初
年即チ一千五百五年三年ヨリ第二世チヤール
大帝ノ時代ニ至ル迄ハ總テ同一ノ格式ト同一
ノ意義ヲ以テ造レルモトス然シテ同氏系ニ
セルデン氏ノ所論ト及ヒ殖民地ノ副水師提督
等ニ判事等ニ為シタル委任ニ付後条ニ記載ス
ル判事マトリリ氏ノ説トニ依テ考フレハ司
法上ノ裁判權ヲ委任スルニ當テモ亦數百年ノ
間ハ水師提督ニ委任セルト同様廣大ノ権力ヲ
委任シ然シテ此等ノ権力ハ司法上ニ関スル國

帝ノ決議旨ニ依テ充分之ヲ保有セシハ敢テ疑
ヲ容レヘカヲサルナリ

爾後第八世ヘシリ帝ノ即位第二十八年ノ制
法第十五篇ヲ以テ水師提督ニモ亦重罪巡回裁
判ノ委任ヲ為シタルニ依リ水師提督ハ總テ河
川諸港急流其他海上ヨリ第一ノ橋下ノ充分海
水ノ流通スル場所等ノ如ク海上或ハ海岸ニ於
テ其他何所ヲ問ハス英國ノ海上裁判所ノ管轄
内ニ屬スル場所ニ於テ犯シスハ法律制定法等
ニ對シ或ハ海上裁判所ノ命令ニ對スルモノ
如キ國家ノ治安法律等ニ對シテ犯シタル謀反
強盜謀殺等ノ犯罪ヨリ其他商人船舶ノ持主船
長船員航海者船匠魚獵者工業者職人水手船舶

掃除人及ヒ其他ノ者等ノ諸人ニ関スル條件ニ
對スル犯罪等ヲ審問スルノ権カニ亦之ヲ有ス
ルモノトス

第一世リチャード帝ノ英國ノ司法上ノ歴史ニ
依レハ千二百年代ノ晩年ニ當リホーレーラン
トヨリヲレロンニ歸着シタル後制定セル彼ノ
ヲレロンノ法律ハ海上律ヲ制定セシモノ最
モ舊旨ニ屬スルモノトス原著者曰ク余ハハル
テスサス氏カラレロンノ法律ノ余ク第一世リ
チャード帝ノ制定ニ係リシモノニアラサルヲ
ヲ明カニ証明セシトハ敢テ之ヲ明知セサルニ
アラズ然レモ余ノ是ノ如ク斷言セル所以ノモ
ノハ他ナシ果シテ該帝ノ制定ニ係ルト否トハ

暫ラ、世ノ問題トカニ唯タ差ニ其起源ヲ掲ク
ル下ノ必要タルカ為シニシテ殊ニ英國ノ碩学
ナル著述者及ヒセルデン氏ノ如キ碩学者モ亦
譽ナ該帝ノ制定ニ係ル下ヲ論究セシヲ以テナ
リ然レテ當時ヲレロシ馬ハ英國ノ所領ニ属セ
シニ依リリチャード帝ハ曾テ該島ニ在留シテ
右ノ法律ヲ頒布セシヨリ之ヲ称シテアレロシ
ノ法律ト云フ然レテ此等ノ法律ハ全ク彼ノ羅
馬帝王ノ法令ニ類似スルモノニシテ尔後共ニ
之ヲ編集シテ殆ト七百年ノ間最モ貴重スヘキ
航海律ノ法律各トシテ之ヲ遵守セシカ此法律
各ノ如キハ蓋シ世人ノ之ヲ手ニ入ルノ好機ア
ル可キヲ以テ敢テ多言ヲ費ヤスヲ要セス唯ク

其各中ニハ最モ明白ナル説明ヲ以テ海上海岸
及ヒ港等ニ於ケル諸種ノ契約犯罪及ヒ責任等
ヲ掲載セル下ヲ讀者ニ示スノニ
尔後此等ノ法律ハ第八世ヘンリー帝ノ治世ニ
當リ之レニ船長航海者商人及ヒ此等ノ者ノ行
為ニ関スル規則ト云ヘル標題ヲ附シテ出版セ
リ然レニ此標題ノ如キハ全ク佛國ノ同一ノ法
律各ニ於ケル往古ノ標題ヲ反訳セルモノニ係
リテ輒ニ英國ニ於テ出版セルモノハ之レニ英
國ノ第一垂リテヤード帝ノ千二百年代ノ輒年
ニ於テホーレラントヨリ歸着シタル後商人
船主船長航海者及ヒ其他航海ノ事務ニ従事
スル諸人ニ関スル規則ヲ改良スルカノ制定セ

ルヲレロニノ海上律ト云ハル標題ヲ附セリ
此著述者ノ一人ノルゾ一氏ハ通常ノ方法
ヲ以テ此等法律ノ規則ヲ左ノ如ク區別ス
即チ

第一 航海ノ爲メノ雇入レタル船舶及ヒ其雇
入ノ手續等ニ関スル規則

第二 船中ニ領收セル物品ヲ安全ニ保有シ
及ヒ之ヲ交付スルヲ規定スル規則

第三 已ムヲ得サル際ニ在テハ船舶或ハ物
品ヲ賣却シ又ハ之ヲ抵當トスルヲ
規定スル規則

第四 船舶ノ全部危殆ニ罹リタル際ニ於テ
其損失ヲ賠償スヘキヲ規定スル規

則

第五 教艘ノ船舶ヨリ又ハ船舶ト船舶トノ
間ニ爲メ損害ノ賠償ニ関スル規

則

第六 水先人ノ雇入料及ヒ水先人ノ職務等
ニ関スル規則

然シテ此等ノ各條款ニ於テハ氏ハ諸種ノ説明
ヲ掲ケ又航海者ノ給料ノ如キ氏ノ一モ説明ヲ
附セサル条件ニ亦數多之アリ

又海上裁判所ノ舊簿冊ト稱シテ往古ヨリノ英
國ニ於ケル海上律ヨリ判決命令及ヒ皇帝水師
提督海上裁判所等ノ處分決議等ヲ登記セル往
古ノ簿冊アルカ如何ナル時代何人ノ之ヲ編集

セシヤハ明瞭ナラス又其筆跡ノ如キハ往古ノ
書風ニシテ全ク同時ニ記録セルモノニアラス
又ハ一人ニテ記録セルモノニアラスシテ全
ク其最初ノ部分ハ第三世イドワード帝若ク
ハ第二世リチャード帝ノ治世中ニ係リ又其最
終ノ部分ハ第四世第五世及ヒ第六世ヘンリー
帝ノ治世中ニシテ即チ法律裁判所ト海上裁判
所トノ間ニ争論ノ起リシ數年前ニ係ルモノナ
リ然シテ此簿冊ハ航海律ノ著述者ニ在テハ一
人トシテ英國海上裁判所ニ突スル往古ノ規則
制定法等ヲ掲載セル最モ有益ナルモノトシテ
之ヲ貴重セサルモノナクセルデニ氏ノ如キ之
ヲ評シテ往古ノ航海裁判所ノ註解及ヒ海上裁

判所ノ法律各トシ其書中ニハ第一世ヘンリー
帝第一世リチャード帝及ヒ第一世イ
トワード帝ノ治世中ノ海上裁判所ニ突スル
憲法ヲ掲載スルモノナリ
此海上裁判所ノ舊簿冊中ニハ航海ノ條件ニ
付テレロンノ法律ニ從テ判決ヲ為シタル各
類ノ數多クアルカ當時此等ノ各類ヲ以テ裁判
ヲ為スノ規則各ト為シタルハ敢テ疑ヒテ容
可カラズ然レモ當時司法推ト行政權トハ未
確立セスシテ各々互ニ他ノ權限ヲ犯シ又裁判
所ノ如キハ區々ニシテ各々争ツテ其權カヲ擴
張シ貴族ハ其自由ト特許トニ依リ其配下ノ郡
官及ヒ其他ノ官吏ヲシテ水師提督ノ權内ニ屬

セシ至當ノ裁判權ヲ侵カセシヲ以テ終ニ第一
世イトウアト帝ノ即位ノ第二年ニ當リ之ヲ
同帝ノ参政ニ上訴シ然シテ同帝ノ特權ヲ以テ
左ノ法律ヲ制定セリ但シ此等ノ條件ハ碩学ナ
ルゾレイン氏ノ其書中ニ論セル所ニシテ氏ハ海
上裁判所ノ舊簿冊ヨリ之ヲ抄録セシテ明言
セリ
第一世イトウアト帝ノ即位ノ第二年ニ於テ
帝ハ左ノニケ條ノ法律ヲ制定シテ之ヲ公布シ
然シテハステンタス炭ハ之ヲ海上裁判所ノ舊
簿冊ノ二十九葉中ニ之ヲ謄記セリ即ケ其法律
ノ明文ニ曰ク
爰ニ教多ノ貴族ハ其領内ニ於テ諸種ノ訴訟

ノ判決スルカノ諸種ノ特許ヲ有スヘシト虽
モ鈔印ノ証卷義務ノ証卷及ヒ其他ノ証卷等
ニ依テ商人又ハ航海者等ニ関スル訴訟ハ其
價額ノ二十「シルリシ」ト又ハ四十「シルリシ」
トニ上ルヲ問ハス貴族ノ老臣又ハ其郡官
ニ於テ之レカ裁判ヲ為ス可カラス若シ何人
ニ依ラス此規則ヲ犯レタルノ告訴ヲ受ケ
テ有罪ト決シタル時ハ後条ニ定メタルモノ
ト同一ノ言渡シヲ受クヘシ是レ第一世イト
ウアト帝ト及ヒ貴族トノ共ニ義認スル所
ナリ
又總テ海上又ハ其他潮水ノ流入スル場所内
ニ於テ高人間又ハ高人ト航海者トノ間ニ紛

ヒタル契約ハ第一世イトウアト帝ト及ヒ
貴族トノ共ニ制定セル法律ニ從ヒ水師提督
ノ面前ニ於テ其審問ヲ為スヘシ決シテ他ノ
場所ニ於テ其審判ヲ為スヘカラス
然ニテ此等ノ二条ニ又左ノ一条ヲ附加セリ即
チ其明文ニ曰ク

何人ニ依ラヌ潮水又ハ潮水ノ流入スル場所
内ニ於テ犯シタル盜罪又ハ兇殺罪等ノ裁判
ヲ為シタルニ依リ其告訴ヲ受ケテ有罪ト決
シタル時ハニケ年ノ禁錮ニ處セラレタル上
國帝ト水師提督トノ所好ニ依テハ尚ホ罰金
ヲ科セラレハシ

此等ノ第一世イトウアト帝ノ法律ハ尔後數

年ノ間之ヲ採用セシハ敢テ疑ヒテ容レ可カラ
サレモノニシテ彼ノアレイン氏ノ引用セシ海
上裁判所ノ舊簿冊中ノ登記ヲ以テ觀ルニ此等
ノ法律ハ第三世イトウアト帝ノ治世ニ至テ
モ尚ホ之ヲ採用セルヲ徴スルニ足レ然シテ
氏ハ戦利航海者ノ給料甲港ヨリ乙港迄ノ船賃
及ヒ航海ノ狂害等ニ関スル訴訟ヲ引用シテ
此等訴訟ノ舉テ往古ノ海上律タルヲレロシノ
法律ト第一世イトウアト帝ノ法律トニ從テ
判決セシトテ証明シ尚ホ且之ヲ証明スルヲ
同一ノ簿冊中ヨリ左ノ記問ヲ引用セリ即チ

海上裁判所ノ舊簿冊

何人ニ依ラヌ總テ舊航海律ニ関スル二条ニ

付。慣例法上ニ於テ商人航海者及ヒ其他ノ者
ヲ告訴セシ者ノ訊問ヲ為スヘシ然シテ何人
ニ依ラズ其告訴ヲ為シタル者ノ有罪ト決シ
タル時ハ其不當ノ訴訟ヲ為シタル為ノ國帝
ニ罰金ヲ并納シタル上慣例法ヨリ其訴訟ヲ
却下シ若シ尚ホ其告訴ヲ為サントスル時ハ
更ニ之ヲ水師提督廳ニ提起スヘシ
又總テ海岸ニ於テ領地ヲ所有スル貴族ノ老
臣郡官等ノ商人航海者等ニ関スル訴訟中共
正價四十「シ」リ以上ニ係ルモノノ裁判
ヲ為サントテ討求スル者ノ訊問ヲ為スヘシ
是レ第一世イ。ト。カ。カ。帝ノ其即位ノ第二
年ヲ以テハス。テ。コ。ス。ニ。於テ制定セ。ル。所。ノ

法律ノリ

故ニ總テ海上又ハ通常潮水ノ流入スル場所
ト稱スル河流内ニ於テ商人間ニ結ビタル契
約ハ右ノ法律ニ依リ水師提督ノ面前ニ於テ
之ヲ審判裁決スヘキモノニシテ其他ノ場所
ニ於テヌヘキモノニアラスト

又第三世イトウアトト帝ノ即位第一十九年(即
チ紀元後千三百七十六年)ニ當リクワヤンボロ
ニ於テ航海ノ事務ニ老練熟達スル海員十八名
ニテ北部ノ水師提督ヲヤリアム子ウヤル氏西部ノ
水師提督ヒリツフ、コールト子一氏及ヒシク港ノ
貴族タルコルド、ラテソル氏等ノ面前ニ於テ訊問ヲ
為シタルモノアリ然シテ其決断各ハ之ヲ皇帝

ニ呈シ皇帝ノ特許状ヲ得テシニク港ト及ヒテ
一ムスニ接近スル郡内ニ於テ船主船長及ヒ航
海者等ヲシテ遵守セシムルキ法律ト為サントテ請
願セリ但シ其次新谷ハ海軍省ノ砲臺ノ薄丹中
ニ記入セシカ其航海上ニ関スル訴訟ノ原由ヲ揭
シモノ數十葉ニ渉ル然レテ其次新ヲ為シタル
條件ノ標目ハバヲ一チ氏ノ其各中ニ引用セル
今氏ノ引用スル所ニ依レハ左ノ如キモノトス
即テ

千三百七十六年即テ第三世イトウアード帝
ノ即位第四十九年ヲ以テクワ井シボロ
於テ十八名ノ老練熟達ナル海員ニテ北部ノ
水師提督タルウカリアム子ウ井ル氏西部ノ

水師提督タルヒリツブエールト子一氏及ヒ
シニク港ノ貴族タルロルドラテソル氏等ノ
面前ニ於テ訊問ヲ為シタル條件ノ標目

第一章 皇帝及ヒ帝國ニ對スル犯罪

第一 國敵ニ食料彈藥等ヲ供給シ又ハ別段
ノ允許ヲ得スシテ國敵ト貿易ヲ為シ
タル者

第二 物品ヲ船中ニ差押ヘテ皇帝ニ隱匿セ
シ者

第三 海賊及ヒ其贓物ノ窩收者海賊ノ保護
者海賊船ノ同船者

第四 船中ニ於テ犯シタル謀殺罪人殺罪及
ヒ其他ノ重罪等ノ犯人

第五 國帝ノ使役ニ供スル為シ差押ヲ受ケ
テ其差押ヲ犯シタル船舶又ハ國帝ノ
使役ニ供スル為シ差押タル船舶ヲ貨
幣ヲ得テ教放セシ海軍ノ巡捕吏又ハ
給料ヲ得タル後國帝ノ使役ヲ逃カレ
タル航海者

第二章 帝國ノ公益ニ對スル罪

第一 金銀ヲ運漕シタル船舶

第二 別段ノ允許ヲ得スシテ海上穀物ヲ運
送シタル者

第三 皇帝ノ港ヨリ商品食料等ヲ輸出シタ
ル者

第四 海上裁判所ノ管轄内ニ於テ犯セル物

品ノ先占者復賣者及ヒ詐偽ノ尺度量
衡ヲ使用シタル者

第五 船舶ノ損所ニ修理ヲ加ヘスシテ其持
主ノ船主ト为リタルヨリ一年內ニ之
ヲ使用シ能ハサルニ至ラシメナル者

第六 免許ヲ有セス又ハ期滿特免ニモ違セ
スシテ破船ヲ討求シタル者

第七 「ガヘール」リツドル「ブラインドステー
ク」ウラタレミル「共ニ」名器等ニ依テ船舶
及ヒ人ノ生命等ヲ失ハシメ若クハ危難
ニ罹ラシメタル者

第八 錨ヲ他ニ運搬シ又ハ錨綱ヲ切斷シタ
ル者

茅九 不当ノ時期ニ於テ鮭魚ヲ獵取シタル者

茅十 蠣貝ノ子ヲ損傷シ又ハ蠣貝汰菜等ヲ獵取スル器具ヲ毀損シタル者

茅十一 不当ノ魚網ヲ以テ魚稅ヲ為シタル者

茅十二 皇帝ノ魚類即チ鯨魚鱈魚海豚等ヲ獵取シテ其半分ヲ皇帝ニ捧呈セザリシ者

茅十三章 水師提督海軍及ヒ海上演習等ニ對スル罪

茅一 水師提督ノ權内ニ屬スル訴訟ノ裁判ヲ為シタル判事又ハ海上裁判所ノ權

内ニ屬スル訴訟ヲ法律裁判所ニ告訴シタル者又ハ水師提督ノ處分ノ執行ヲ妨害シタル者

茅二 水師提督ヲ蔑如シタル船長航海者

茅三 拾物棄物等ノ水師提督ノ股分及ヒ水師提督ニ屬スル沒收物

茅四 水師提督ニ屬スル漂流物投棄物沈没物

茅五 至当ノ船賃ヲ以テ内國船ヲ雇入ルルヲ得ル時外國ニ荷積ヲ為シタル者

茅六 不當ノ給料ヲ領收シタル船匠

茅七 不當ノ給料ヲ領收シタル船長航海者

第八 不熟練ニ依テ船舶ヲ顛覆シタル水先
人

第九 船舶ヲ遺棄シタル航海者

第十 船長ニ抵抗シタル航海者

然レテ又爰ニ千六百六十四年ヲ以テ判事長ア
ンデルソン氏ノ第一世イドウアード帝ノ法律
ヲ擧ケテ説明セシ所ニ依レハ水師提督ハ此時
代ニ至ル迄海上又ハ其他海上ニアラサルモ潮
水ノ流入スル時ハ海上ノ一部ト看做スヲ得ハ
キ潮水ノ充滿スレ場所ヨリ潮水ノ退却スル迄
ノ内ニ於テ犯シタル者ニ至ル迄總テ其裁判權
ヲ有セシ者トス

此等ノ一世イドウアード帝ト及ヒ第三世イド

ウアード帝トノ法律ハ之ヲ以テ大ニ海上裁判
所ニ勢カク興ヘシヨリ為メニ他ノ裁判權ヲ蠶
食シテ終ニ其權内ニ属サシムルモ抑領セ
シモノハ如シ依テ水師提督ノ其航海ノ條件
ニ関スル往古ヨリノ裁判權ヲ行フノミナラス
尚ホ國內ノ州郡ニ於テ皇帝ニ属スル没收物破
船等ノ侵害破壊運搬等ノ裁判權ヨリ食料ノ價
額職工ノ給料及ヒ其他陸地ニ於テ營業ヲ為ス
普通人民ノ職業ニ日々関係アル諸種ノ條件等
ヲ規定スルノ權ニ至ル迄之ヲ行フテ皇帝ハ
上訴ヒシヲ以テ為メニ第一世イドウアード帝ノ
即位後十三年ノ判法第五篇ヲ頒布シテ至当ノ
航海律ト及ヒ第三世イドウアード帝ノ治世ニ

於ケル習慣トテ規定セリ即チ其制法ノ明文ニ
曰ク

紀元後千三百八十九年ノ第ニ世リキヤ
一ト帝ノ即位第十三年ノ第五篇ノ制法
爰ニ水師提督及ヒ其代負等ノ國內ノ諸種ノ
場所ニ於テ他ノ権カヲ侵カシテ其官職ニ属
サハル権柄ヲ行ヒ以テ我カ皇帝ト國內ノ慣
例法トテ害シ諸種ノ特許ヲ減殺シ人民ヲ疾
苦スルヲ建言上訴スル者今日ニ至ル迄少
カラス依テ尔後水師提督及ヒ其代負等ハ唯
タ我カ皇帝ノ高祖皇帝タル賢明ナルイドウ
アトト帝ノ治世ニ於テ收用セル如ク今日ニ
在リモ尚ホ收用スル意義ヲ以テ辨叙スヘキ

海上ニ於テ為シタルモノハ外國内ニ於
テ於テ為シタル者ハ總テ之ニ関涉ス可ラヌ
此旨規定スル者ナリ

右制法中ニ記載セルモノハ外ナル語ハ全ク
ヲ加ルヨリハ又ハ除クハ外等ノ言詞ト同一ノ
意義ヲ有スルモノニシテ若シ此等兩語ノ果シ

テ英國ノ國內トハ總テ英國海ヲ包含スルノ意
義ヲ以テ使用セラレシモノニ係ルニ於テハ蓋
シ此制法ノ意義ニ付テ爭論ノ起リシヲナカル
可シ又水師提督ハ唯タ第一世イトウアトト帝
ノ治世ニ於テ收用セシ意義ヲ以テ解叙スヘキ
海上ニ於テ行ヒタルモノヲ除クハ外國内ニ於
テ行ヒタルモノニ関涉スヘカラヌトハ唯タ之

ヲ以テ往古ヨリノ航海ノ裁判權ヲ水師提督ノ權内ニ存留シテ其新クニ押領シテ皇帝ノ利益ヲ害シ貴族ノ特許ヲ滅殺シ人民ヲ疾苦スル陸地ニ屬スル裁判權ハ之ヲ收奪セシ者ニ過キサルヲ疑フ容ル可カラズ

又海岸ノ潮水ノ充滿スル場所ヨリ潮水ノ退却スル迄ノ間ハ衆人等ヲ着テ潮水ノ流入スル所ハ之ヲ海上ナリトセシヨリ水師提督ハ其海上ト及ヒ満潮ノ場所ヨリ于潮ノ場所迄ノ間ニ於テ有スル權利ヲ擴張シテ終ニ干潮ノ時ニ至テハ陸地ニ屬スル場所内ヨリ小川ノ堤水堰池塘等ニ至ル迄之ヲ及ホシ然レテ地方ニ水面中ノ陸地内ニ屬スル場所ノ特許自由先ニ郡邑等

ニ其權カク擴張シテ皇帝ト貴族トノ所得特許等ヲ押領セリ

故ニ斯ル弊害ヲ防遏シテ地方ニ屬スル法律上ノ裁判權即チ于潮ノ時ニ至テハ陸地ニ屬スル水面及ヒ潮水ノ流入セサル河川流水池塘等ニ屬スル裁判權ト皇帝貴族等ノ所有ニ屬スル所得トヲ保護スル為メ又更ラニ前項ニ記載セル制法ヲ頒布セシヨリ二年ノ後ヲ以テ他ノ制法ヲ頒布セリ即チ其制法ノ明文ニ曰ク

紀元後千三百九十一年ノ第二世リキヤ
ト帝ノ即位第十五ノ第三編ノ制法
爰ニ全國ノ人民ヨリ水師提督及ヒ其代負等ノ其權内ニ屬スルニアラズ又ハ其權利ヲ有

スルニモアラヌシテ全ク我カ皇帝貴族等ニ
属シ又ハ郡邑ニ属スル諸種ノ裁判權特許及
ヒ其他數多ノ利益ヲ押領シテ陸地上ノ人民
ヲ苦シメ皇帝貴族及ヒ全國郡邑ノ利益ヲ害
スルコトヲ當議事院ニ於テ我カ皇帝ハ上訴ス
ルヲ以テ爾後地方内又ハ陸地ニ属スル水面
内ニ於テ發生スル契約訴訟爭論及ヒ其他ノ
條件並ニ海上ノ破船等ニ付テハ水師提督廳
ニ於テ一モ之レカ裁判權ナク此等ノ條件ハ
全ク國家ノ法律ニ從テ之ヲ審問シ裁決シ辯
論シ收復ヲ得ヒシムヘキモノニシテ決シテ
水師提督及ヒ其代官等ノ之レニ冥涉スヘキ
モノニアラズ然レモ大河ノ海上ニ接近スル

橋下ヲ漂流スル船舶内ニ於テ犯シタル人殺
創傷等ニ付テハ水師提督ハ其裁判權ヲ有ス
可ク其他皇帝ト國家トノ航海ノ為メニ洋中
ニ於テ船舶ヲ差押ユルノ權又ハ其航海中ハ
洋中ノ裁判權等ヲモ有スヘシト虽モ之レカ
為メ皇帝ニ属スル沒收物利益等ヲ押領シ又
ハ貴族或ハ郡邑等ニ属スル特許自由ヲ收奪
ス可カラズ此旨議定スルモノナリ
願フニ此制法ハ充分明瞭ナラサルニ依リ其法
文中地方内又ハ陸地ニ属スル水面内ナル文面
ノ如キハ後世ニ至リ法律上ノ判事ニ在テハ之
ヲ以テ地方ノ境界内ナル文面ト同一ナリト思
考セリ故ニ此等ノ文面ニ付テハ其使用上ヨリ

シテ到底争論ヲ免カレサルモノニシテ敢テ至
当ノ文面ト称スルヲ得ス何トナレハ元来英國
ノ地方ハ一トシテ海上若クハ航海ヲ為シ得ハ
キ河川ヲ接續シテ其境界内ニ巨天ノ水面ヲ包
含セサルモノアラサルノミナラス尚ホ且于潮
ノ水面ヲ包含スル地方モ亦少ナカラザルモノ
ニシテ又地方トハ潮水ノ景況ノ如何ヲ問ハス
必ス之ニ于潮ノ水面ヲ包含スルトハ毫モ疑ヒ
テ容ルヘカラサルヲ以テナリ然レモ満潮ノ際
ニ當テハ満潮ノ水面ヨリ干潮ノ水面ニ至ル迄
ノ場所ハ地方ノ境界内ニ属サレルトハ亦能ク
決定スル所ナリ然レモ右ノ文面タルヤ全ク之
ヲ以テ陸地ト及ヒ海上ニ接續セス又ハ海上ノ

一部トモ看做スヘカラサル水面蓋シ航海ヲ為
シ得ヘキ水面ニアラサル可シトヲ示スモノト
了解セサル可カラサルモノト是レ判事長ア
ンデルソン氏及ヒロルドコック氏等ノ所説ハ
皆ナ然リトスルモノ、如シ是レニ由テ之ヲ觀
レハ水師提督ノ權内ニ属スル裁判權ハ唯タ海
上ト及ヒ海岸ノ満潮ノ場所ト干潮ノ場所トノ
間ノ水面ニ於テ海上ノ通常ノ行為中ニ爲シタ
ルモノトモニ限リテ海水ノ退満スル時ニ在テ
ハ其海水ノ退却スル間ハ陸地ニ属スル場所内
ニ於テ爲レタルモノハ總テ慣例法ニ從テ之レ
カ審問ヲ為ス可キモノトハ何トナレハ海水ノ
退却スル時ハ其場所ハ地方ノ一部トシテ其境

界内ニ属スルヲ以テナリ又満潮ノ場所内ニ於
テハ特リ水師提督ノミ其裁判權ヲ有シ満潮ノ
場所ト干潮ノ場所トノ間ノ水面ニ於テハ前文
ニ記載セル如キハ慣例法上ト水師提督トニ於
テ互ニ其裁判權ヲ有スルモノトス是レ第二世
リチャールト帝ノ即位第十三年ノ制法第五篇ヲ
以テ第一世イトウアート帝ノ治世ニ於ケル習
慣ヲ規定セシト及ヒ同帝ノ即位第十五年ノ
制法第三篇ヲ以テ此等ノ習慣ヲ廢棄スルニア
ラスレテ唯タ水師提督ノ新クニ押領セル地方
内ノ河川ニ於テ為シタルモノニ突スル裁判權
ヲ收奪セシトトテ以テ之ヲ徴スルニ足ルモノ
ニシテ碩学ナルカレイン氏モ亦此等ノ第二世

リチャールト帝ノ即位第十三年ト第十五年トノ
制法ヲ以テ第一世イトウアート帝ノ即位第二
年ヨリ帝ノ判事長アンデルソン氏ノ時代ニ至ル
迄數年ノ間疑問ト為リタル權利法律及ヒ習慣
上ノ問題ヲ決定セシモノト最モ明瞭ナルモノ
トセリ然シテ第二世リチャールト帝ノ即位第十
三年ノ制法ハ解款方ノ通常ノ規則ニ依テ解款
スル事ハ全ク第一世イトウアート帝ノ治世ニ
於ケル習慣ヲ法律トシテ承認規定セルモノニ
シテ苟クモ此等習慣ノ別段之レヲ廢棄セシニ
アラサルヨリハ同帝ノ即位第十五年ノ制法ニ
依テ廢棄ニ属セシモノト為ヌヲ得ス
元來此制法ハ之ヲ以テ海上裁判所ノ權内ニ属

スル往古ヨリノ裁判權ヲ制限スル爲メニ制定
セルモノニアラヌ唯ク全ク皇帝貴族等ニ屬ス
ル没收物ヲ保護スル爲メニ制定セルモノ一係
ルト虽レ海上裁判所ニ於テハ反テ之ヲ媒介ト
シテ此制法ヲ以テ專ラ防遏セントセシ此等ノ
没收物ヲ益々蠶食押領セリ故ニ尔後千四百年
ニ至リ又更ラニ第四世ヘンリー帝ノ即位第ニ
年ノ制法ヲ頒布セリ即チ其明文ニ曰ク

紀元後千四百年ノ第四世ヘンリー帝ノ
即位第ニ年ノ第ニ篇ノ制法

爰ニ第ニ世リチャールト帝ノ即位第十三年ヲ
以テウヘストミニニスタルニ於テ制定セラレ
シ制法ニ拠ルニ水師提督及ヒ其代人タル者ハ

唯ク同帝ノ高祖皇帝タル賢明ナルイドワア
トトノ治世ニ於テ收用セシ意義ヲ以テ解釈
ス可キ海上ニ於テ爲シタルモノトシノ外ハ
河事ニ依ラス總テ國內ニ於テ爲シタルモノ
ニ関涉スヘカラヌトス依テ我カ皇帝ハ此制
法ヲ賢ク遵守シテ之ヲ實際ニ施行スヘキト
ヲ命ス

蓋シ此制法ヲ頒布セル所以ノ目的ハ他ナシ彼
ノ第ニ世リチャールト帝ノ即位第十三年ノ制法
ハ往々同帝ノ即位第十五年ノ制法ト相混合シ
テ之ヲ解釈スルモノアルヲ以テ全ク斯ル狹隘
ナル解釈ヲ除却セントスルニ外ナラサルナ
リ

第六章 千六七百年代中ノ法律裁判所
ト海上裁判所トノ間ノ軌轢ノ事

此等法律裁判所ト海上裁判所トノ間ノ軌轢ハ往古ニ在テハ敢テ甚シキ激烈ニ至ラ
サリシカ爾後一層激烈ナル競争ト为リテ海上
裁判所ハ故ナク大ニ世人ノ猜忌抵抗スル所ト
为リ千六七百年代ニ至テハ益々世人ノ之ヲ猜
忌スルニ至レリイトウアーツ氏曰ク猜忌トハ
上等裁判所ニ在テ此問題ヲ起シタル心情ニ適
用ス可キ温和ナル語ナリ何トナレハ競争心ヨ
リハ反テ欲心ヲ以テ此問題ヲ起シタルモノ
如クナルヲ以テナリト又アレーン氏曰ク斯ル
猜忌ハ敢テ公益ヲ謀ルノ赤心ヨリ出テタルモノ

ニアス全ク一種ノ裁判權ヲ以テ他ノ裁判權ヲ
併呑セン为ノ一層其裁判權ヲ擴張セントスル
ノ意ヨリ出テタルモノナリト然シテ斯ル世人
ノ猜忌ヲ来セシ所以ノ起源ヲ帰スヘキモノハ
怨ムラクハロルトコーク氏其人ヲ除クノ外他
ニ其人ナク故ニ世人ノ斯ル賢明ナル人ノ所説
ニ附会シテ氏ノ同轢ヲ踐ミ氏ト同論ヲ主張セ
シハ敢テ驚愕スヘキモノニアラス矣シテ此軌
轢ハ恰カモ兩裁判所ノ間ニ開戦ヲ公告セシカ
如ク益々激烈トナリシヨリウヘストミニスタ
ル應ヨリ禁令状訴下等裁判所ニ在テ其受理セシ
裁判所トシテ禁令状訴下等裁判所ニ在テ其受理セシ
裁判所トシテト云フテ其裁ヲ登シテ
時々海上裁判所ニ在テハ許訟ヲ停止セシカ之

レカカノ反令海上裁判所ハ當時権力微弱ニシテ
テ對手ノ一方ヲ攻撃マルノ勢カナク唯ク其往
古ヨリ数年ノ間享有セシ特許ヲ固執スルニ過
キサリシモ尚ホ乏レテ以テ該裁判所ヲ鎮撫ス
ルヨリハ反テ大ニ之レヲ激怒セシメシモノ
如シ

此軌轢ノ未タ斯ル激烈ニ至リテ其禁令状受ケ
サレ前イリサベス如帝ノ治世中千五百七十五
年ヲ以テ海上裁判所ノ判事ト法律裁判所ノ判
事トノ間ニ其禁令状ニ付契約ヲ為セリ然シテ
此契約ニ付テハ女帝ノ之レニ關係セサルモノ
ノ如シト虽此契約ハ間接ヨリシテ此等向裁判
所權間ノ平和ヲ維持スルノ功ヲ奏セリ何トナ

レハ爾後イリサベス女帝ノ治世中ハ唯ク口ル
ドコリク氏ノ其法律註解書ノ第四卷中ニ記載
セル二三ヲ除クノ外ハ曾テ海上裁判所ニ對シ
テ禁令状ヲ發出セシテアラサルヲ以テナリ但
シ彼ノ千五百七十五年ノ契約ヲ以テ觀ルルハ
法律裁判所ニ於テ其裁判權ノ軌轢ニ乘シテ立
法權又ハ皇帝ノ特權ニ屬スル権力ヲモ討求セ
シトテ徴スルニ足レ又此等ノ裁判所ニ於テハ
海上裁判所ノ請求ヲ允許シ其契約ヲ義諾シテ
之レト約定ヲ為シタル如ク能ク規則ニ從ヒ法
律ヲ遵奉シテ裁決ヲ為シタルモノニアラサル
カ如ク實ニ法律ハ海上裁判所ノ一方ニ在リテ
権力ハ法律裁判所判事ノ手ニ掌握セシモノ

如シ
左ニ記載スルモノハ則チ千五百七十五年ノ契
約ナリトス即チ

千五百七十五年三月七日ヲ以テ海上裁判所
判事ヨリ女帝陛下ノ裁判所判事長及ヒ其同
僚ト為シタル請求元ニ判事ノ義諾

請求

總テ海上裁判所ヨリ衡平上等裁判所へ上訴
ヲ為シタル訴訟ニ付海上裁判所ニ於テ終審
ノ裁判言渡ヲ為シタル後ハ其上訴ヲ為ス者
ノ之ヲ為スハ他ノ伸寛方ニ依ルヲ好マスシ
テ全ク己レノ所好ヲ以テ其上訴ノ伸寛方ニ
依ルヲ以テ其者ヨリ願ヲ為スモ右海上裁判

所ノ判事ニモ又ハ衡平上等裁判所ノ判事
ニモ禁令状ヲ發出スルヲ禁セラレン
トヲ

義諾

爰ニ判事長及ヒ其同僚相共ニ協議ノ上總テ
衡平上等裁判所判事ヨリ裁判言渡ヲ為シタ
ル後ハ禁令状ヲ發出ス可カラス尚ホ且未
裁判ノ言渡ヲ為サレト雖モ若シ海上裁
判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ為スハキ次期ノ
期中若クハ遅クモ其次期ノ開期中ニ願ヲ為
サレルニ於テハ亦禁令状ヲ右判事へ發出ス
可カラサルヲ義諾ス

請求

又爾後ハ一應訊問ノ上証據判災タルト認
定スルニアラサルヨリハ唯ク疑察推量ノミ
ヲ以テ禁令狀ヲ發出スヘカラス若シ至當ノ
理由アルトノ判災タル時ハ先ツ海上裁判所
ノ判事ト被告人ノ一方トニ於テ裁判所ノ便
宜・依テ高議ヲ爲シタル上共裁判ノ停止ヲ
并論スルヲ得ヘキト

兼諾

若シ至當ノ理由アルトノ判災タル時ハ海上
裁判所ノ判事ト被告人ノ一方ト裁判所内ニ
於テ高議ヲ爲シタル上裁判ノ停止ヲ并論スヘ
キトヲ兼諾ス

請求

又海上裁判所ノ判事ハ第一世イドウアト
帝ノ即位第二年ノ制定ニ係ル往古ノ法律ト
及ヒ曾テ一タヒ皇帝ヨリ授與セラレシ後爾
後教多ノ皇帝ヨリモ授與セラレシ水師提督
ノ特許トニ依リ其他往古ヨリノ習慣ニ依リ
然テ海上ヨリ生スル契約及ヒ其他ノ條件等
ニ関スル裁判權ハ毫モ他ヨリ阻礙或ハ禁制
ヲ受クルトナク全ク之レヲ有スルヲ得ヘキ
ト

兼諾

此請願ハ判事長及ヒ其同僚相共ニ之レヲ兼
諾ス

請求

又海上裁判所ノ判事ハ往古ヨリノ習慣ト及
ヒ第八世ヘンリイ帝ノ即位第三十二年ノ制
法第十四篇トテ依リ總テ海上ノ某地迄為ス
ヘキ航海ノ使用ニ供スル為メ船主ト商人ト
ノ間ニ結ビタル雇船ノ契約ニシテ海上ニ於
テ遂行ス可キモノノ違約ニ關スル裁判権ハ
仮令本國內ニ於テ其契約ヲ結ビタルモノト
雖モ之ヲ有スレヲ得ヘキト

兼諾

總テ海上ニ於テ遂行ス可キ契約ニ關スル裁
判権ハ仮令本國內ニ於テ結ビタルモノニ係
ルトモ凡第八世ヘンリイ帝ノ即位第三十二
年ノ制法第十四篇ニ依テ之ヲ有スヘキトヲ

兼諾

請求

又前項ニ記載セル訴訟ニ付テハ海上裁判所
ノ判事ハ決シテ訴訟遷移狀被
告人ト共ニ
ハスル令状命
状ヲ發出スヘカラス若シ之ヲ發出ス
ルトアル時ハ往古ヨリ慣行セル如ク其訴訟
ト共ニ該令状ノ返還ヲ兼諾セラヘントヲ

兼諾

若シ前後ニ記載セル訴訟ニ付斯ル令状ヲ發
出スルトアル時ハ其訴訟ノ此等ノ訴訟ニ係
ルモノノ証卷ヲ得クル上又ハ其證卷ヲ得ナル
モ此等ノ訴訟ニ於テ裁判所ニ對シテ犯シタ
ル蔑如ノ訴訟ニ係ルモノハ亦被告人ヲ再々水

師提督ニ属スル獄舎ニ還付ス可キトテ承諾
ス

當時海上裁判所ノ裁判権ハ總テ船隻雇船ノ契
約船舶ノ質入航海者ノ給料船舶ノ負債船舶ノ
建造者修理者等ニ關スル訴訟ヨリ其他航海上
ニ突スル總テノ訴訟ニ至ル迄之ヲ擴張セリ然
レ共再後イリザベス女帝^{前御シ給ヒ從テ}治世ニ於ケル政府
ノ官吏タリシ者モ亦多クハ死去シタル後其裁
判権ニ付曾テ爭論ノ起リタル時ニ當リコルド
コーク氏ハ其己レノ表示ヲ受ケタル此等ノ裁
判権ニ関スル各類ニ如何ナル判事ノ署名ヲモ
アラサリシヲ以テ其権カアルヲ拒絶シテ「キン
クスベンチ」^チ廳ノ判事ニ於テハ曾テ其承諾ヲ爲

セシ者アラサルトテ主張シ從テ氏ハ從前ニ
於ケルヨリハ一層屢々禁令狀ヲ發出セリ從レ
ニ海上裁判所ノ碩学士等ハ尚ホ論說ヲ尽シテ
其裁判権ヲ以テ他ノ権カヲ押領セシトスルニ
アラヌ又ハ此等裁判所ノ権限ヲ擴張セシトス
ルノ意ニアラヌシテ全ク正理公道ト及ヒ海上
裁判所ノ自然ノ地位トニ依テ當然有スヘキ一
層有カノ権カヲ得ントセシト虽ヒ此等ノ論說
ハ終ニ其貪欲ナレ攻撃者ヲシテ之レニ服從セ
シムルノ功ヲ奏スルヲ得サリシカ此無用ノ争
論タルヤ特リ海上裁判所ノ判事ノ其防禦者
タリシノミナラス高人タル人民等モ亦相共ニ
敵手ノ防禦者トナリテ其叫聲四方ニ起リシヨ

終ニ午六百十一年ニ至リ之ヲ第一世セイヤ
 ハス帝江上訴シテ帝ノ面前ニ於テ彼ノ千五百
 七十五年ヲ以テ法律裁判所ノ判事ト海上裁判
 所ノ判事トノ間ニ結ビタル契約ヲ朗読シ炎レ
 テ海上裁判所ノ判事タル水師提督ヨリ皇帝工
 敷願ノ説明各ヲ捧呈セシニ皇帝ヨリ海上裁判
 所ノ判事タルドクトルルガン氏工其敷願ノ條件
 ヲ條款ニ認ノ之ヲ法律裁判所ノ判事工提致シ
 テ之ヲレテ其答弁ヲ爲サシム可キヲ命セリ
 然ルニコルドコリク氏ハ之レニ氏ノ傲慢ナル
 氣象ヲ表示スルニ足ルヘキ專断ノ答弁ヲ附シ
 之ヲ以テ法律裁判所判事考ノ答弁トセリ然レ
 ニ決断ニ及レシキセイムス帝ハ右ノ敷願ニ付

終ニ如何ナル命令ヲモ爲サスレテ唯タ彼ノ千
 五百七十五年ノ契約ヲ批准セシニ過キサリシ
 ヲ以テ海上裁判所ニ於テハ高ホ其及フヘキ勉
 カヲ以テ抵抗ヒシト虽ヒ終ニコルドコリク氏
 ノ勝利ニ歸シタリ
 此敷願ノ條件書ハ之ヲ称シテ海上裁判ノ敷願
 ノ條款各トス英シテ左ニ記載スルモノハ其條
 款書ニモコルドコリク氏ノ答弁各ナリトス即
 チ

海上裁判所ノ敷願ノ條款書

海上裁判所へ發出スル禁令此ニ実シ本國內
 ノ判事ニ対シテ英吉利ノ水師提督ヨリ皇帝
 陛下工捧呈スル敷願各但レ此敷願各ハ皇帝

ノ命令ニ依リ爾後海上裁判所ノ判事タルコト
クトルカシ氏之ヲ條款書ニ造リテ本國內ノ
判事之レニ答弁ヲカシ然シテ爾後法律上ノ
三種ノ権カ即チ(一)議事院ノ決議ニ依リ(二)裁
判官渡及ヒ裁判上ノ手續ニ依リ(三)判決録ニ
依テ確定ヒレ可ノモノナリ
水師提督及ヒ海上裁判所々屬ノ官吏ヨリ別
段敷願ヲカシテ收復ヲ請フタル諸件左ノ如
シ即チ

第一條 弁駁

總テ海上ニ於テ結ヒタル契約及ヒ海上ニ於
テ為シタル條件等ニ関スル訴訟ハ海上裁判
所ノ權内ニ屬スルモノナリ然レモチ第一ノ
ト推測シテ慣例法上ニ於テ漫リニ其審問ヲ
為ス

答弁

爰ニ本國ノ法律ニ據ルニ海上裁判所ニ於テ
ハ本國ノ地方内ニ於テ起リタル契約及ヒ其
他ノ訴訟等ハ陸地ニ於テ為シタルモノト水
上ニ於テ為シタルモノトヲ問ハス其裁判ヲ
爲スノ權ナク此等本國ノ地方内ニ於テ起リ
タル契約及ヒ其他ノ訴訟條件等ハ陸地ト水
上トニ於テ起リタルモノヲ問ハス其他海上
ノ破船ニ関スル訴訟モ亦全ク國家ノ法律ニ
依テ審問シ裁決シ弁論ニ收復ヲ得セシムハ

キモノニシテ敢テ水師提督又ハ其代負等ノ
面前ニ於テスヘキモノニアラス然レテ海上
裁判所ニ其裁判權アルト否トハ其訴訟ノ原
由ノ起リタル場所ノ敢テ流通スル水上ト流
通セサル水上トニ屬スルノ如何ニ依ルモノ
ニアラスレテ全ク地方内ノ水上ニ屬スルト
否トノ如何ニ依ルモノナリ依テ海上又ハ其
他地方内ニ屬サ、ル場所ニ於テ起リタル契
約及ヒ其他ノ訴訟等ニ付テハ(到底十二名ノ
人数ニテ其審問ヲ爲シ能ハサルニ依リ)其裁
判權ハ水師提督ノ權内ニ屬スルトヲ承諾ス
然シテ従前ヨリ法律上地方内ニ屬サ、ル海
上トシテ定ノタル場所ニシテ水師提督ノ其

裁判權ヲ有スル海上ニ於テ起リタル航海上
上ノ條件ニ関スル契約及ヒ其他ノ訴訟等ニ
付テ禁令状ヲ發出セシトハ古来ヨリ一モ之
ヲ証明スルニ足ル可キ先例アラス尚ホ此一
事ニ付テハ第六條ノ答弁ヲ參觀スヘシ

第二條 辨駁

又海上ニ於テ爲レタル賒賣契約等ニ付海上
裁判所へ訴訟ヲ提起スルニ當リ此等ノ訴訟
ハ固ヨリ慣例法上ノ裁判權内ニ屬サ、ルモ
尚ホ海上裁判所ニ對シテ禁令状ヲ發出スル

1

答辨

此等ノ慣例法上ノ裁判權内ニ屬サ、ル是レ

本條ノ目的ナリ海上ニ於テ爲シタル賒賣契
約等ノ許詔ハ警察官令狀執行官等ノ權内ニ
屬ス何トナレハ水師提督ノ權内ニ屬スル裁
判權ハ全ク地方内ニ屬サレ海上ニ限レル
ヲ以テナリ然レモ若シ本國內若クハ其他ノ
場所ニ於テ某事ヲ爲シ或ハ貨幣ヲ弁償ス可
キトテ約スル契約負債ノ契約或ハ其他ノ鈔
印約等ヲ海上ニ於テ結ビタル時ハ其契約ハ
全ク慣例法上ニ依リ其裁判ヲ爲シテ通常ノ
收復ヲ得セシムルヲ得ルモノニシテ斯ル際
ニ在テハ其裁判權ハ警察官令狀執行官ノ權
内ニ屬スルニアラヌ又ハ水師提督ノ權内ニ
屬スルニモアラヌ故ニ此等ノ契約ニ付海上

裁判所ニ於テ慣例法ヲ蔑如シテ其所分ヲ爲
シタル時ニ當テハ法律上定メタル如ク禁令
狀ヲ發出セルト往々之アリ

第三條 辨駁

又海上裁判所ニ於テハ往古ヨリノ習慣ニ依
リ出廷及ヒ同裁判所ノ處分裁判言渡ノ遂行
普ク保任スルノ盟約ヲ爲サシムルヲ例トセ
リ然ルニ今日ニ在テハ慣例法上ノ判事ニ於
テ水師提督廳ハ司簿裁判所ニアラサルヲ以
テ斯ル盟約ヲ爲サシムルノ權ナシトシ禁令
狀ヲ發出シテ全ク其盟約ヲ爲サシムルノ權
カヲ收奪スルト

答辨

海上裁判所ハ羅馬法ヲ採用スル裁判所ニシテ司簿裁判所ニアラサルヲ以テ最テ司簿裁判所ニ於ケルカ如ク斯ル盟約ヲ為サシムルノ權ナク若シ本國ノ法律ヲ犯カシテ斯ル盟約ヲ為サシメタルハ法律上定メタル如ク禁令状ヲ發出セシテ往々之レアリ然シテ若シ海上裁判所ニ於テ誤謬ノ裁判言渡ヲ為シタルハイリサベス女帝ノ即位前八年ノ制法第五篇ニ從ヒ其正誤状ヲ得スシテ之ヲ海上七等裁判所ノ全ク司簿裁判所ニアラサルヲ徴スルニ足レモノトス

第四條 釋駁

又海上ニ於テ遂行スヘキ約ヲ以テ結ビタル雇船ノ契約ニ関スル訴訟ヲ始終禁令状ヲ以テ海上裁判所ヨリ遷移スルコト

答弁

若シ本國ノ郡邑港或ハ地方内ニ於テ雇船ノ契約ヲ結ビタルハ法令海上ニ於テ若クハ海上ヲ經テ遂行スヘキモノニ係ルモ尚ホ其契約ハ慣例法上ノ通常ノ手續ヲ以テ審問裁決ス可キモノト同一ノ契約ニ屬スルモノニシテ敢テ海上裁判所ニ於テ其審問裁決ヲ為スヘキモノニアラス故ニ斯ル契約ノ訴訟ニ付海上裁判所ニ於テ慣例法上ノ裁判權ヲ押領ヒシハ禁令状ヲ發シテ海上裁判所ノ判事ニ其裁判ヲ為スコトヲ禁シ其訴訟ヲ為ス者

ニ之ヲ提起スルヲ禁シ然シテ本國ノ法律ニ依リ其訴訟ヲ為シタル者ニ巨大ノ償金ヲ命セシト屢々之アリ

第五條 辨駁

又「ノシ」ヲゾスタント、スタテウト「其事ヲ行フ」ハノ先許ヲ受クルニ行フハキヲレハ合法ニ行ヒルハサレハ之ヲ行フニ行フハ許スルニ皇帝ノ特許ヲハ元ト皇帝ノ特權中ニ因原セルモ「ニシテ總テ他ノ特許中ニモ附帶スルモ」ニ係ルモ尚ホ水師提督ノ有スル特許中ニハ其特許中委任セラレタル訴訟ノ裁決ヲ命スヘキ効カアラサルトシ慣例法上ノ判事ニ於テハ其効カアルトテ駁撃スルト

答弁

第二世リチャード帝ノ即位第十三年ノ制法第三篇及ヒ同帝ノ即位第十五条ノ制法第五篇ト第四世ヘンリー帝ノ即位第二年ノ制法第十一篇トハ全ク全國人民ノ關係アル海上裁判所ノ裁判權ヲ規定セル制法ニ係リテ「テ」ノ「シ」ヲ「スタント」ノ特許ヲ以テ之ヲ動カシ能ハサルハ毫モ疑ヒヲ容ルヘカラス故ニ此條件ノ如キハ固ヨリ之レカ答弁ヲ為スヲ要セス然レモ海上裁判所ニ於テハ漫リニ此特許ヲ假裝シ此等議事院ノ決議ヲ犯カシテ慣例法上ノ裁判權ヲ押領シ大ニ人民ヲ苦シメシヲ以テ人民ヨリ其收復ヲ受クル為ノ「ハ」ス「ミ」ニ「スタル」ノ上等裁判所ヘ告訴セシト

屢々之アリ

第六條 辨駁

又潮水ノ進退スル河川ノ海上ヨリ第一ノ橋
下及ヒ港江等ニ於テ起リタル訴訟請願等ハ
總テ海上裁判所ノ裁判権内ニ屬スルモ此等
ノ場所ハ慣例法上ノ判事ニ於テ海上ノ部分
ニアラス又ハ海上裁判所ノ裁判権内ニ屬サ
ルモトニ海上裁判所ニ於テ往昔ヨリノ
習慣ニ依リ此等ノ場所ノ裁判権ヲ有セシニ
モ冥セズ該裁判所ニ提起スル訴訟ニ對シテ
常ニ禁令狀ヲ發出スルト

答弁

本條ノ答弁ハ第一條ノ答弁ニ同シ然シテ尚

ホ左ノ數言ヲ申明ス即チ海上ニ接近スル河
川ノ川口ノ巨流中ニ漂流スル大船中ニ於テ
犯シタル人殺傷害等ニ付テハ此二件ニ限リ
水師提督ハ其裁判権ヲ有スヘシ然レモ本國
ノ地方内ノ河川港江等ニ於テ起リタル契約
及ヒ其他ノ訴訟等ニ関スル裁判権ハ水師提
督ノ権内ニ屬スルモアラサシテ總テ地
方内ニ於テ為シタル條件ノ訴訟ハ十二名ノ
人負ノ決断ヲ以テ之ヲ審問シ慣例法ニ依テ
其裁決ヲ為ス可キモノニシテ敢テ海上裁判
所ニ於テ羅馬法ニ從テ其裁決ヲ為スヘキモ
ノニアラサルハ毫モ疑ヒヲ容レヘカラス
何トナレハ本國ノ慣例法上ニ其審問ヲ為ス

可キ此等ノ訴訟ヲ以テ海上裁判所ノ判事ヲ
シテ羅馬法ニ從テ其裁判ノ言渡ヲ爲サシム
ル時ハ全ク本國ノ法律ヲ變スルモノニシテ
海上裁判所ノ判事ヲシテ此訴訟ノ裁判ヲ爲
サシムル下ノ危険ナル下ハ往古ヨリノ判決
例ヲ以テ之ヲ徵スルニ足ルヲ以テナリ尚ホ
第一條ノ答弁ヲ參觀ス可シ

第七條 并駁

又海上裁判所ノ裁判權ヲ温順ニ執行スル爲
ノ紀元後千五百七十五年ヲ以テ「キンクスベ
ン」廳ノ判事ト海上裁判所トノ間ニ結ビ
ル契約ハ其所約ノ如ク之ヲ遵守セラルト

答弁

本條ニ記載セル契約存ナルモノハ余輩ノ末
ヲ曾テ領收セシトアラスト虽此皇帝ノ面前
ニ於テ曾テ如何ナル判事ヲモ署名ヲ爲サ
ル書面ヨリ朗讀セシク之ヲ聴知セシヲ以テ
爰ニ一言之レカ答弁ヲ爲スヘシト虽此他ノ
答弁トハ大ニ異ナルモノニシテ即チ此契約
ハ全ク本國ノ法律制定ニ相反スルモノナリ
故ニ「キンクスベン」廳ノ判事ニ於テハ其詐
稱スルカ如ク之レカ承諾ヲ爲セシ理ナク又
又ハ本國ノ法律トシテ其承諾ヲ爲セシ
理ヲモアル可カラズ

第八條 并駁

其他改正ヲ爲サハル可カラサル條件數多之

レアリ然シテ此等ノ條件ハ故ラニ之ヲ掲出
スレラ要セス前數条ヲ講究スルニ當テ容易
ク之ヲ着破スヘシ

答弁

本條ハ茫字トシテ別段之レカ答弁ヲ為スラ
得ス本條ノ申明セル所ニ依テ觀ルキハ反テ
水師提督及ヒ其屬官殊ニ公使等ハ左諫者ノ
告諭ヲ受ケス前条ニ記載セル「ノ」ヲナスク
ニ「ト」ノ特許ヲ假裝シテ本國ノ慣例法上ニ屬
スル裁判權ヲ押領セシノミナラス尚ホ且ツ
皇帝ニ屬スル權利特權等ヲモ押領シテ海賊
ノ海上ニ於テ掠奪セシ高價ナル物件賤品及
ヒ其他水師提督ノ受ケタル「ノ」ヲナスク

「ト」ノ特許ヲ包含スル特許中水師提督ノ所有
ニ屬スルニアラステ全ク皇帝ニ捧呈スヘ
キ物件賤品等ヲ己レノ所有ニ歸セシ「ト」ヲ認
知スルニ過キス然リ而シテ此平和ノ治世ニ
當リ仮令水師提督等ノ其訴訟ヲ以テ其裁判
權内ニ屬スル「ト」ヲ主張シテ終ニ慣例法上ノ
裁判權ヲ押領スルモ恐クハ一事ヲモ行フ可
キモノナクシテ毫モ其利益ヲ得サル可ク又
此平和ノ治世ト爲リタル以來「水師提督等」ノ
申明スルカ如ク「彼」ノ軌轢前ニ於ケルヨリモ
一層屢々禁令狀ヲ發出セシニ於テハ豈ニ何
ソ斯ノ如ク慣例法上ノ裁判權ヲ押領スレラ
得可ケンヤ

禹後第一世セーームス帝ノ晩年ヨリ第一世
ヤーレス帝ノ即位第七年迄ノ間ハ慣例法上ノ
判事ト海上裁判所トノ間ニ争論ノ起リシナ
カリシカ第一世チャールズ帝ノ即位第七年ニ
當リ海上裁判所ノ判事タル水師提督ヘンリー
マールターン氏ハ再ヒ皇帝ト内閣執政トニ上訴
シテ其面前ニ於テ海上裁判所ト慣例法上ノ判
事トノ間ニ於ケル條件ヲ数日間天ニ并論ヒシ
ヨリ終ニ此等ノ條件ハ内閣ニ於テ皇帝出生ノ
上有名ノ法律家タルロルトキキパーバルコラウ
ヘントリー氏及ヒロルトコラウヘーシキパー
ルモンテーク氏等ヲ始トシテ総計二十三名ノ
執政ニテ其條款ヲ唇面ニ記載シケル上其遂條

毎ニ之ヲ朗讀シテ高議決定シ然シテ法律裁判
所ノ判事十二名ト及ヒ慣例法ノ博学者中ノ柱
石トスル碩学ノ法律家タル代言人総長ヨナリ
アハノライ氏ト并ヒ海上裁判所ノ判事一同之
レニ署名シタル上之ヲ内閣ノ會議簿冊ニ登記
シ然シテ其原本ハ皇帝ノ命令ニ依テ内閣ノ唇
箱中ニ保存セリ即チ其決議唇左ノ如シ

千六百三十二年「ホアイトホル」ニ於テ

出席人名

皇帝陛下

ロルト、キーハル

ロルト、ウヤ、ウヤンブレトシ

ロルト、アーチラフ、ヨルク

ロルド、ウオース、ウヘントラルス

ロルド、トレジウレル

ロルド、ウキ、フタクランド

ロルド、フライウヘー、シキール

ロルド、ロシヨ、ポ、アス、ロントン

イラル、マルシヤル

ロルド、コツチン、グドン

ロルド、ケマンバルレーン

ロルド、ニウバルク

イラル、ヲフ、ドルピット

トレジウレル

イラル、ヲフ、カレリスル

ウシポトルレル

イラル、ヲフ、ホルラント

ウアイス、ケマンバルレーン

イラル、ヲフ、ダルベール

セクリタリ、エーク

ロルド、ケマンセロル、ヲフ、スコットラント

セクリタリ、ウキ、テハンク

イラル、エルトン

爰ニ禁令状ニ関シウヘストニニスタルノ上

等裁判所ト海上裁判所トノ間ニ起リタル争

論ヲ高議決定スル為ノ本日ヲ以テ皇帝陛下

出坐ノ上内閣ニ於テ左ノ諸件ヲ評議決定シ

然ル後ウヘストニニスタルノ上等裁判所ノ

判事ト海上裁判所ノ判事ニ。代言総長トノ

面前ニ於テ之ヲ朗讀シタル上此等判事総長
等ノ一同之ヲ承諾シテ各々之ニ署名シ然レ
テ其謄本ヲ内閣ノ會議簿冊ニ登記シ其原本
ハ之ヲ内閣ノ各箱ニ保存ス

第一條

若シ海上ヲ經テ若クハ海上ニ於テ結ビタル
契約又ハ其他自身ノ為シタル條件ニ付海上
裁判所へ訴訟ヲ提起スル者アルハ爾後禁
令狀ヲ發出スヘカラス

第二條

若シ船賃航海者ノ給料等ニ付又ハ海上ノ航
海ノ信用ニ係ヌル者ノ為シタル雇船ノ契約
ノ違約ニ付海上裁判所へ訴訟ヲ提起スル者

アル時ハ假令其雇船契約ノ本國內ニ於テ結
ビタルモノニ係リ且本國內ニ於テ其雇賃ヲ
弁償ス可キモノニシテ一モ其罰金ヲ討求シ
能ハサル時ト雖モ亦禁令狀ヲ發出スヘカ
ス然レモ若シ其訴訟ノ罰金ヲ討求スルモノ
ニ係リ又ハ果シテ雇船ノ契約ヲ為シタルト
否トノ有無ニ係リ又ハ原告人ノ本國內ニ於
テ其契約ヲ解廢セシト否トノ有無ニ係ルキ
ハ此等ノ訴訟ハウヘストニニスタルノ上等
裁判所ニ於テ其審問ヲ為スヘク海上裁判所
ニ於テ其審問ヲ為スヘカラス故ニ斯ル訴訟
ニ於テハ誓約ヲ以テ其雇船ノ契約ヲ為シタ
ルトテ拒絶シ又ハ其他誓約ヲ以テ拒絶ヲ為

スヲ得ヘシ

第三條

若シ船舶ノ建造修理救助又ハ必要ナル食料ノ供給等ニ付其船ニ関係アルモノノ姓名ニ對スルニアラステ其者ノ其船ニ付テ有スル船舶ノ利益ニ對シテ海上裁判所ニ訴訟ヲ提起スル者アルハハ仮令此等ノ條件ノ本國內ニ於テカシタル者ニ係ルト雖モ亦禁令状ヲ發出スヘカラス

第四條

水師提督ハ航海ヲ為シ得ヘキ河川ノ海上ヨリ第一ノ橋下ニ於テ犯シタルモノニシテ海上往返ノ航海若クハ通行ノ妨害ト為ル可キ

違犯ハ然テ之ヲ訊問除却シ又ハ海上ノ航海ニ關スル動産上ノ契約或ハ侵害等モ亦然テ其審問ヲ為スノ權アル可ク爰シテ此等ノ訴訟ニ於テハ亦禁令状ヲ發出スヘカラス

第五條

何人ニ依ラズ若シ禁錮ニ附セラレタル時保身狀禁錮ノ管官吏或ハ其他ノ裁判所ヨリ人ヲ引テ之ヲ禁錮令セシメテ理由人ニ依ラズ可キ正請禁錮セラルルハ何時ハ向ハス此令状ヲ正請禁錮セラルルハ何時ハ向ハスヲ得テ右教条ニ記載セル禁令状依テ禁錮セラレタルトテ証明シタルハ其者ヲ還附ス可シ

トーマスリチャードソン

法律省

クロロク氏ノ其著述ニ係ル判決録中ニ一モ
レノ批評ヲ加ヘス全ク法律上ノ証據トシテ此
等ノ決議各ヲ掲載セシ其第一第二ノ出版ニ係
ルモノト氏ノ死去セル後出版セシ其第三版ニ
係ルモノ、其目錄中ノ海上裁判所ノ部分トテ
披テ見レハ其第一第二版ニ係ル書中ニハ其決
議各ニ署名セシ判事内閣大臣等ノ姓名ヲ掲ケ
テ今日ニ至ル迄存留スルト由ニ其第三版ニ係
ル書中ニハ如何ナル理由モナク又ハ并解ラミ
掲ケヌシテ此等判事内閣大臣等ノ多クハ其姓
名ヲ掲ケサルハ豈ニ奇ナラスヤ然シテ當時此
書ハ裁判所ニ於テ最モ権カアリシ各ナリシカ
故ラ之ニ其姓名ヲ掲載セサリシヲ以テ觀レ

ハ其決議各ニ署名ヲ爲サレ慣例法上ノ判事
等ニ在テハ尚ホ書類簿冊等ヲ詐テ元ト不良心
ヨリ企圖セシ勝利ヲ得ントシ曾テ争論ヲ起シ
タル時ノ蔑如スヘキ心意ヲ尚ホ其胸中ニ蓄ヘ
シハ敢テ疑ヒテ容ル可カラサルナリ
然レ此等ノ條件ハ未タ之ヲ以テ慣例法上ノ
判事ヲシテ其署名ヲ爲サレルノ条駁ヲ爲サ
シムルニ足ラスシテ数年ノ間兩裁判所ノ間ニ
争論ノ起リレトナカリシカル後皇帝ト議事院
及ヒ人民トノ間ニ争論起リシヨリ終ニ皇帝ノ
権カヲ減殺シテ更ラニ攝政官ナルモノヲ設ケ
シカ此争論タルヤ今日ニ在テハ其詳細ヲ知ル
ニ由ナシト臣ハ蓋シ皇帝ノ権カヲ減殺セシヨ

リ復々兩裁判所間ニ争論ノ再燃セシハ疑ヒテ
容レス然シテ當時共和政治ノ議事院ニ於テハ
通商貿易上ノ良友ニ誘導セラレテ海上裁判所
ノ裁判權ヲ一層擴張シテ人民ヲシテ其便益ヲ
得セシメントセシヨリ終ニ千六百四十八年ノ
法律ヲ頒布スルニ至レリ即チ其法律左ノ
如シ

千六百四十八年ノ英吉利共和政府ノ決議法
律等ノスコツベル氏ノ集輯録ノ百四十七葉
中ヨリ抄出ス

第百十二章 海上裁判所ノ裁判權ノ
決定

爰ニ當議事院ニ集會セル上下兩院ノ議員ハ

航海ノ條件ニ関スル訴訟ノ審問ニ付其裁
判權ノ不確定ナルカ爲メ合衆帝國內ノ通商
ト外國トノ貿易トニ關シテ日々起ルハ數
多ノ不便アルトテ幾頭セルニ依リ當議事院
ノ權カヲ以テ左ノ如ク規定ス

海上裁判所ニ於テハ總テ船舶及ヒ其船具細
具器具等ニ對スル訴訟又ハ船舶ノ修理必要
物ノ供給及ヒ其船舶ヲ航海ノ使用ニ供スル
爲メ之レニ供シタル食料ノ供給等ニ関スル
訴訟又ハ船隻入ノ契約其他船積航海等ニ関
シ若シハ此等ノ船積航海等ニ付テ發生スヘ
キ損害或ハ航海中海上ニ於テ發生スヘキ損
害等ニ関シ海上ニ於テ結ヒタル契約等ニ関

スル訴訟又ハ雇船ノ契約或ハ船賃積荷目録
航海者ノ給料等ニ関スル契約或ハ船中ニ積
入レタル物品ノ損害或ハ甲船ヨリ乙船ニ加
ヘタル損害或ハ錨ニ依リ若クハ浮標ノアラ
サル爲メ受ケタル損害等ニ関スル訴訟等ノ
裁判權ヲ有スヘシ然レモ商人間若クハ其代
高人間ノ爲換券或ハ計算等ニ関スル訴訟ハ
海上裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘカラス
總テ前項ニ記載セル訴訟ニ於テハ海上裁判
所ニ於テ如何ナル阻止妨礙或ハ告訴ヲモ受
ケルナク又ハ従前ヨリノ法律、制法、習慣等
ノ如何ニ関セス全ク至当ノ方法ヲ以テ此等
ノ訴訟ヲ聽紀記向シ海上ノ法律ト習慣トニ

從テ其裁決ヲ爲シタル上之ヲ執行スヘシ然
レモ此等ノ訴訟ニ於テ其終審ノ裁判ニ服セ
ス又ハ其終審ノ裁判ニ依リ損害ヲ受ケタル
爲メ従前ニ於ケルカ如キ方法ヲ以テ其裁判
ニ對シテ更ラニ上訴ヲ爲スルハ之ヲ禁スヘ
カラス

又海上裁判所ノ判事ハ何時ニ依ラス上下兩
院ヨリ命スヘキ判事三人若クハ兩院ヨリ命
ス可キ其他ノ人莫クテ以テ其定員トシ該裁判
所終審裁判ノ言渡ヲ爲スノ席ニ列スル判事
ハ各々其言渡ヲ爲ス時若クハ其以前ニ於テ
其言渡ヲ爲スヘキ法律上ノ理由若クハ其意
見ヲ申明シ且其言渡ヲ受クヘキ者ニ適用ス

可ク裁判所へ提供セシ法律習慣及ヒ其他ノ
條件ノ(可カ及)答弁説明等ヲ為スヘシ
又此法律ハ三年間有効ニ継続スヘク然シテ
亦後ハ其効ナシトス
千六百四十八年四月十二日頒布ス
但シ此法律ハ千六百四十一年四月二日ノ法
律第三篇千六百五十四年ノ法律第廿二篇及
ヒ千六百四十五年ノ法律第廿一篇ニ依テ永久
ノ法律ト为レリ
然レヒ紀元後千六百六十年ノ回復ニ依テ廢
物ニ属セリ
海上裁判所ハ爾後數年ノ間此法律ニ依テ管理
セラレシカ其後コロムウヘレ海上裁判所判

事ノ一人ニシテ曾テ海上裁判推論ナルモノヲ
著述セシドクトルヒン氏ハ再ヒ其裁
判推ヲ回復セリ然シテ當時氏ノ曾名也ニ高カ
リシヨリ其回復ヲ為シタル時氏ハ拔擢セラレ
テ皇帝ノ代言人ト為リ其後直テニ海上裁判所
ノ裁判推ノ論セシ氏ノ海上裁判推論ナルモノ
ヲ出版セリ即チ其論説ニ曰ク
海上裁判所ノ裁判推内ニ属スルモノ頗ル多
シ總テ水師提督及ヒ其属官ニ関スル條件又
ハ合衆帝國ノ軍艦高船及ヒ其船主等ニ直接
ニ関スル條件又ハ船舶ノ官吏ト通常ノ航海
者トヲ問ハス總テノ航海者及ヒ其權利特許
等ニ関スル條件又ハ航海者ノ官位職發給料

及ヒ故意怠慢若クハ偶然ノ事ニ依リ或ハ罪ト為ルヲ知ラス或ハ精神ノ不健全ニシテ犯シタルモトヲ問ハス總テ航海者ノ犯シタル犯罪ヨリ及ヒ其刑罰又ハ海上ノ指揮官及ヒ其屬官等ニ関スル條件ヨリ若シ其職務特許特件犯罪刑罰等ニ関スル條件ハ學テ其權内ニ屬スルモトナリ

又總テ船舶ノ持主現有主等ニ関スル條件又ハ船長水先人舵工水先長及ヒ其他船舶ノ官吏等ニ関スル條件又ハ戦利ニ依テ收奪シタルモノトヲ問ハス海上ニ於テ為シタル收奪等ニ関スル許諾又ハ雇船ノ契約船税関ノ証書積荷目録各海上

委任状、保険証、積荷計算書、船長ノ簿冊及ヒ其他船舶ノ書類等ニ関スル條件又ハ船賃航海者ノ給料、積荷料、港税、水先料、碇泊料及ヒ其他ノモノニ関スル訴訟等モ亦其權内ニ屬スルモノナリ

又總テ海上ニ於テ結ビタル契約ニ関スル訴訟又ハ海上ニ於テ貸附セル貨幣ニ関スル訴訟又ハ海上ニ於テ為シタル船舶或ハ船舶ノ一部或ハ其積荷或ハ其他ノモノ、貨入、抵当書入、貨等ニ関スル訴訟又ハ投荷即チ海中ニ船荷ヲ投棄セシメ及ヒ國敵海賊等ノ為メニ掠奪セラレタル船舶積荷等ノ損失ノ分擔等ニ関スル訴訟又ハ海上ニ於ケル腐敗、掠奪、強

盜海賊盜等ニ関スル訴訟又ハ航海者ノ船舶
 船具網具器具其他航海上ニ附属スルモ
 付テ有スル航海ノ權利ニ関スル訴訟又ハ裝
 網者食料ノ供給者船雇人主船主及ヒ船舶ノ
 一部ノ持主等ニ関スル訴訟又ハ皇帝ノ使用
 ニ供セシ免許ヲ受ケタル船舶ニ関スル訴訟
 又ハ海上ニ於ケル破船浮貨投貨沈貨拾貨大
 藏省ニ属スル拾物皇帝ニ属スル魚類及ヒ水
 師提督ニ属スル此等ノ股分若シ共發見者等
 ニ関スル訴訟等モ亦其權内ニ属スルモノト
 ス
 其他船舶網索等ヲ知断シ又ハ船舶ノ因テ以
 テ碇泊スル錨ヲ動カシ又ハ人身船舶物品等

ニ對シテ命シタルモノトテ問ハス水師提督
 ヨリ命シタル差押ヲ犯カシ又ハ皇帝ノ使用
 ニ供スル為メ差押ハタル船舶ニ付彼ノ勞一
 世リテヤードト帝ノ治世中ケリムスベクニ於
 テ制定シタル法律中ニ定メタル没收ノ刑ヲ
 以テ罰スルハ其差押ヲ犯カシ又ハ航海者ノ
 給料ヲ受ケタル後皇帝ノ使役ヲ為スヲ免
 カレ又ハ航海ノ契約及ヒ其他航海上ニ関
 スル條件ノ訴訟ヲ海上裁判所外ニ提起シ又
 ハ第一世イドワアードト帝ノハニテングスニ
 於テ制定セル法律ニ違反シ亦ハ英吉利海上
 裁判所ノ法律習慣等ニ違反シ又ハ船中ノ穀
 類魚類等ヲ買占メ或ハ海上官吏ノ之ヲ強取

買占シ又ハ皇帝ノ特許ヲ得スレテ自己ノ使
 用ニ供スル為ノ獨リ潮水ヲ占有シ又ハ大河
 中ニ航海ノ妨害ト為ル可キモノヲ設ケ又ハ
 船中ニ於テ詐偽ノ度量衡ヲ使用シ又ハ海上
 裁判所ノ管轄内ニ於テ蔑見セル溺死人ノ物
 品或ハ浮貨投貨拾物皇帝ニ属スル魚類其他
 皇帝水師提督ノ股分ヲ有スル物品等ヲ隱匿
 シ又ハ船匠航海者等ノ過分ノ給料ヲ討求シ
 又ハ海賊ヲ蓄養シ教唆シ宿泊セシメ隱匿シ
 安慰ヲ供シタル者又ハ允許ヲ得スレテ禁制
 物ヲ輸出シ又ハ不當ノ時間即チ五月一日ヨ
 リ耶蘇去世日ニ至ル迄ノ間ヲ以テ牡蠣「マ
 タレ」貝類等ヲ採取スル者又ハ魚類ノ種属或

ハ幼魚ヲ獵殺シ又ハ港内ニ於テ不當ニ特許
 ヲ討求シ又ハ海上裁判所官吏ノ其裁判所
 命令ヲ執行スルヲ妨害シ又ハ船舶検査官
 監察官等ノ其職務ヲ尽サス又ハ海上裁判所
 官吏ノ其職務ヲ瀆カシ又ハ人民ノ害ト為ル
 可キ有毒ノ食料ヲ輸入スル者又ハ外國船ノ
 雇主ノ法律ニ違反シ又ハ皇帝或ハ水師提督
 ヲ行状証昏ヲ受ケタル囚徒或ハ其他禁制
 ヒラレタル者ヲ運送シ又ハ港江海岸等ニ石
 沙ヲ投棄シテ其妨害ヲ為シ又ハ水先人ノ不
 熟練ニ依テ船舶ヲ破壊シ或ハ人ヲ死亡セシ
 メ又ハ不法ノ獵網或ハ其他禁制ノ網ヲ以テ
 魚獵ノ使用ニ供シ又ハ船禁ヲ犯カシ或ハ皇

帝ノ命令若クハ法律ニ違反シテ海上ニ進行
 シ又ハ國歌ノ船舶ニ食料ヲ供給シ或ハ國歌
 ニ船舶ヲ供給シ又ハ航海ヲ為シ得ヘキ河川
 ノ河岸或ハ造船所埠頭等ニ於テ船舶ノ危難
 ニ罹リ若クハ航海海上貿易等ノ妨害ト為レ
 モノヲ為シ又ハ船舶ノ船具器具等ヲ押領シ
 又ハ航海者ノ給料ヲ減少シ又ハ税関税或ハ
 其他海上ノ賦税ヲ偽リ又ハ船中ノ旅客ノ他
 人ニ妨害ヲ加ヘ或ハ他人ノ旅客ニ妨害ヲ加
 ヘ又ハ甲船ノ乙船ニ損害ヲ加ヘ又ハ必要ク
 ルニアラスシテ方向外ノ場所若クハ國歌海
 賊或ハ巖石アレ場所其他危険ノ場所へ航行
 スルカノ暴風中海上へ進航シ又ハ船舶ヲ破

壞シ若クハ危難ニ罹ラシメントスル目的
 ヲ以テ密カニ船中或ハ其他ノモノニ穴ヲ穿
 タント企謀シ又ハ航海者ヲ誘惑セントスル
 目的ヲ以テ海岸或ハ魚獵船中ニ此等航海者
 ノ船舶ノ危難ニ罹レ可キ恐レアル詐偽ノ夜
 燈ヲ点火シ又ハ不熟練ナル船長水先人航海
 者等ノ故意ヲ以テ不當ノ取扱ヲ為シ或ハ水
 先人ヲ使用セス若クハ破損船ヲ以テ航海ヲ
 為シ又ハ船舶ニ其噸教以外ノ物品ヲ積入レ
 若クハ不當ニ物品ヲ船中ニ積入レ又ハ禁制
 物ヲ輸入シ若クハ禁制ノ港或ハ指定ノ港ニ
 アラサル場所ニ物品ヲ輸出スル等ノ航海上
 ノ犯罪違反等ニ関スル訴訟其他航海上ニ從

事スル者ノ地位及ヒ其權利責任過等ニ受ス
ル諸種ノ條件ノ訴訟等モ亦然テ海上裁判所
ノ權内ニ屬スルモノトス

前項ニ記載セシ法律ハ海上裁判所ノ裁判權ノ
回復ニ依テ無効ニ屬セシヨリ慣例法上ノ判事
ハ復タ往々海上裁判所ニ禁令狀ヲ裁レテ其裁
判ヲ為スヲ停止セリ依テ商人等ヨリ彼ノ千
六百三十二年ノ規則ヲ堅ク遵守セシヲ歎訴
セシト岳凡此歎訴モ又ハ判事ゴードルヒン氏
ノ論說ヲモ終ニ行ハレサリシカ當時法律家ハ
數年ノ爭論ニ勞カレシヨリ終ニ此戰爭ニ付テ
ハ不利ノ和談ヲ為スノ外亦之レカ抵抗ヲカス
者ナク又復ノ口ルトコーク氏ノ首唱者トカリ

テ閑陳セシ強暴ナル論說ハ尔後益々其贊成者
ヲ得テ勢カノ如ハリシヨリ海上裁判所ニ於テ
ハ之レカ抵抗ヲ為シ能ハヌシテ終ニ之レニ服
從セリイトウアーツ氏曰ク假令海上裁判所ニ
於テ往古ヨリ有セシ權カノ多クハ數年ノ間之
ヲ失ヒシト虽モ該裁判所ニ於テ今日ヨリ往古
ヲ追顧スル時ハ反テ功ニニ能ク襲撃ヲ免カレ
テ今日ニ至ル迄存留セシヲ自負スルニ足ル
可ク又千六百七十年代ニ於テ碩学ナル法律家
ノ主張セシ論說ハ蓋シ早晚必ス世ニ行ハル可
シ何トナレハ今ヤ己ニ海上裁判所ノ裁判權ヲ
制限セシ地方ノ規則ヲ以テ一層之ヲ擴張スル
ノ路ヲ開キタルヲ以テナリト然シテ漸次高業

ノ盛大ナルニ後ハ海上裁判所ノ裁判權ヲ回復
スルヲ必要タルニ至リシヨリ終ニウヰタト
リア女帝ノ即位第三年ヨリ四年ニ亘ルノ制法
第六十五篇ヲ以テ数年ノ間法律裁判所ニ於テ
押領セシ海上航海上ノ裁判權ニ屬スル教多
ノ訴訟ヲ收奪シテ之ヲ海上々等裁判所ノ權内
ニ屬セリ

然シテ爰ニ千八百年代中水師提督ヨリ副水師
提督へ發出セシ委任状及ヒ海上々等裁判所ヨ
リ海上下等裁判所へ發出セシ委任状等ニ依テ
觀ルルハ此等下等裁判所ノ權内ニ屬スル裁判
權ノ權限ト海上々等裁判所ノ裁判權トノ如何
ヲ徵スルニ足ルカ此等ノ權限ニ依ルルハ如何

ナル海上裁判所ハモ禁令状ヲ發出シ能ハサル
ニ依リ尔来海上裁判所ニ於テハ其往昔ヨリ有
セシ充分ノ裁判權ヲ回復シテ毫モ他ノ妨礙ヲ
受クルトナク其初審ト終審トノ裁判權ヲ行フ
ニ至リシトハ毫モ疑ヒヲ容ルヘカラス
右論述セル如ク英國ニ於ケル海上裁判所ノ往
古ノ裁判權ハ頗ル廣大ニシテ苟クモ航海上ニ
冥スル訴訟ハ總テ其權内ニ屬セシカレドモ
ノ云ハル如ク正當ノ所説アラサル突然ノ請願
ニ應シ最モ不當ノ理由ヲ以テ始終禁令状ヲ發
シテ其施行ヲ停止セシヨリ終ニ最モ狹隘ナル
區域ニ至ル迄之ヲ減殺セレトハ前數行中ニ
論ヒレ所ヲ以テ瞭然タリ然シテ斯ノ如ク其裁

判権ニ抵抗シテ之レヲ減殺セシ方法行、為等ニ
至テハ未タ詳細ニ之ヲ論セサルカ読者若シ之
ヲ研究セント欲セハ且シクガルリフン氏ノ著
昏芳ニ卷ノ三百九十八条中ニ掲ケタルテ、セ
リヤ氏ヨリホイト氏ニ對スル有名テレ訴訟
ニ就テ見ルハ此訴訟タルヤ曾テ判事ストリ
リ、氏ノ之ヲ引用シテ其碩学ト鑑定ノ英敏ナ
ルヲトテ世ニ顯ハセシヨリ當時裁判上氏ノ名
聲四方ニ高ク然シテ永ク國家ノ司法上ノ歴史
中ニ其榮典ヲ止メリ

司法部記錄文庫
保
第八十八號
本三冊
內

自和七年
至和十三年

朱國海

卷五

詞
錄
首

詞
錄
首

第七章 米國革命ノ時ニ於ケル英國ノ海上裁判所ノ事

前章中既ニ論述セル如ク我々米國ハ革命前ニ在テハ英國ノ殖民地ニシテ該國ノ書冊中ニモ説明セル如ク該國ノ慣例法ヲ收用セシヨリ為メ我々米國ニ於ケル殖民地ニ於テモ亦當時英國ニ於テ行ハレシ規則ヲ設ケテ海上裁判所ノ裁判權ヲ減殺セントスルノ論說起リテ數年ノ間法律裁判所ト海上裁判所トノ間ノ爭論ト為リシカ終ニ海上裁判所ノ裁判權ハ大ニ之ヲ減殺セラレテ此等爭論ノ後其權内ニ存留セシモノハ唯タ左ノ僅マタル諸件ニ關スル訴訟ニ過キサリキ即チ

外國ノ海上裁判所ノ裁判言渡ニシテ其言渡
 ニ関スル本人若クハ物品ノ右海上裁判所ノ
 管轄内ニ在ル裁判言渡ヲ執行スル事
 鈴印ノ契約ヲ以テモシニアラサシテ全ク通
 常ノ方法ヲ以テ約シタル航海者ノ給料
 他ノ際ニ於ケルヲ除クノ外唯々其種ノ際ノ
 ニニ於テ為シタル船舶ノ書入質
 財産ヲ海中ニ投棄セサル時ノ危難ノ救助料
 船舶ノ雇入ニ関スル船ノ株式ノ持主間ノ訴
 訟
 船舶ノ衝突及ヒ洋中ニ於テ財産若クハ人身
 ニ加ヘタル損害
 水師提督官ニ属スル海上ノ所得

是ノ如キモノハ則テ往古曾テ数百年ノ間合法
 ニ施行セシ海上裁判所ノ廣大ナル裁判権中彼
 ノ争論ノ後其権内ニ存留セシモノナリ
 然シテ斯ノ如ク僅カニ此等諸件ニ関スル訴訟
 ノミ海上裁判所ノ権内ニ存留シ然シテ之ヲ諸
 州ノ司法権ニ委任セシテ憲法ヲ以テ大政府
 ニ允許セシニ至リシハ果シテ如何ナル理由ニ
 因リシヤハ今日ニ於テ(當時ノ民情ヲ明知スル
 ニ由ナキヲ以テ)容易ク之ヲ了解スルヲ得ス蓋
 シ恐クハ余輩ノ常ニ我カ共和政府ノ父タル者
 ニ望ム如キ充分ノ見識アリテ然リシニアラス
 シテ全ク一時ノ輕忽ニ出テシニ外ナラサル可
 シ

又此等、法律裁判所ト海上裁判所ト、兩裁判
所間ニ争論、起リシハ全ク衡平法ノ制規ヲ破
壞セシト欲スルノ精神ヨリシテ胚胎セルモノ
ニシテ法律裁判所ノ一方ニ於テハ其勢力ノ強
大ニシテ且當時ノ人民ノ知識未タ幼稚ナリシ
ヨリ此等ノ助力ヲ以テ大ニ他ノ一方ヲ攻撃セ
シトハ毫モ疑ヒヨ容レサル所ニシテ一モ否ラ
サルヲ証明ス可キモノアラス然シテ總テ航
海上ニ關スル契約ニ付テハ海上裁判所ニ於テ
合法ニ其裁判權ヲ有セシト雖モ常ニ法律裁判
所ヨリ禁令状ヲ發出シテ之ヲ行フヲ禁シ然シテ
其訴訟ヲ已レノ裁判所ニ移シテ古格旧例ニモ
適セス又ハ規則正理ニモ適セサル裁決ヲ為セ

リ惟フニ當時恰カモ戰場ニ於ケルカ如ク裁判
所ノ間ニ在テモ亦努力ノ強大ニシテ之レカ勝
敗ヲ争フ者アラサル時ハ自然判事ノ裁判上ニ
其影響ヲ及ホセシニ依リ若シ夫レ法律裁判所
ニ於テ衡平裁判所ノ判事ニ禁令状ヲ發出スル
ノ權カアリテ斯ル高官ノ官吏タル判事ノ本國
内ニ於テ司法上ノ最モ高官タル人ニアラサル
ニ於テハ蓋シ衡平裁判所ニ於テ海上裁判所ヲ
征服シテ其裁判權ノ最モ貴重ナル部分ヲ收奪
セシハ敢テ疑ヒヨ容ル可カラサルナリ
元来「ギンクス、ベニチ」廳ニ於テハ海上裁判所ニ
禁令状ヲ發出スルノ權カアリト雖モ該裁判所
ノ裁判權ヲ伸縮スルノ權ナク全ク其裁判權ハ